

平成 20 年度

川崎市立小学校
学習状況調査
報告書

川崎市教育委員会・川崎市立小学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 木場田 文夫

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代だと言われています。このような時代に対応できるよう、新しい学習指導要領が本年3月28日に告示されました。この新しい学習指導要領では、基礎的な知識や技能を習得させ、思考力・判断力・表現力等を育成することが明示されています。

本市でも、「知・徳・体」からなる「生きる力」を育む教育の実現をめざして平成17年3月に「かわさき教育プラン」を策定し、本年4月からは、「かわさき教育プラン～第2期実行計画～」を実行に移しています。このプランを実現させるために、教育委員会としてさまざまな施策に取り組むとともに、各学校におかれましては、次代を担う子どもたちの育成に日々ご尽力いただいているところです。

さて、川崎市立小学校学習状況調査は平成17年度より導入され、本年は4回目の実施となります。この学習状況調査は、「かわさき教育プラン」の「学校の教育力を高め、確かな学力を育成する」という重点施策の1つの事業として位置付けられ、次の点を目的として実施されています。

- ① 学校や教員が子どもたちの学習状況を正確に把握することにより、指導方法や教育課程の改善を図る
- ② 子どもと保護者に学習状況を伝え、一人ひとりの子どもの学習に対する課題を明確にし、子どもが学習に取り組む態度や、家庭での学習のあり方を改善することに役立てる
- ③ 教育委員会が各学校の教育課題を正確に把握することにより、それぞれの学校を効果的・効率的に支援する

各学校におかれましては、このような本市における学習状況調査の趣旨をご理解の上、調査結果を指導方法や教育課程編成の改善に繋げたり、学習意欲の向上や学習習慣の確立に役立てたりするよう、ご活用いただきたいと思います。

終わりに、学習状況調査の運営・実施にあたってご尽力いただきました小学校学習状況調査研究会議をはじめとする小学校長会の皆様に厚くお礼申し上げます。

学習状況調査の実施にあたって

川崎市立小学校長会
会長 内藤 良一

本年3月28日に新しい学習指導要領が公示されました。改訂の基本的な考え方として、「生きる力」を育むという理念を実現するために、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、確かな学力を確立するための授業時間数の確保、学習意欲の向上や学習習慣の確立などが盛り込まれています。川崎市におきましては平成17年度に「かわさき教育プラン」（平成20年4月第2期実行計画）を策定し、重点施策の一つとして「学校の教育力を高め、確かな学力を育成する」ことを掲げています。

川崎市立小学校学習状況調査（国語、算数、学習意識調査）は、この重点施策に基づき、平成17年度より市内の小学校5年生を対象に実施されています。この調査は子どもたちの「確かな学力」にかかわる基礎学力や学習意識などの状況を調査し把握することで、各学校が教育課程編成の検証・改善や指導方法の見直しを図ったり、学習状況を子どもと保護者に伝え、今後の学習に役立てたりすることなどを目的としています。また、継続実施することで、本市の子どもたちの生活や学習に関する意識の経年変化を把握することができ、そのことが今後の教育施策構築に貢献できるものと考えております。

各学校におかれましては、このような本調査の目的をご理解いただき、本報告書を今後の教育課程編成や指導方法の改善・充実に向けて十分にご活用いただければ幸いです。

最後に、ご尽力いただきました本市小学校教育研究会並びに教育委員会の皆様方に深く感謝申し上げます。

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査対象教科・人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査対象教科・人数	5

II 調査結果の概要

1. 国語	6
(1) 作問にあたって	6
(2) 領域ごとの結果	6
(3) 出題・観点等一覧	7
(4) 大問ごとの分析と考察	8
(5) 今後の指導にあたって	20
2. 算数	22
(1) 作問にあたって	22
(2) 領域ごとの結果	22
(3) 出題・観点等一覧	23
(4) 大問ごとの分析と考察	24
(5) 今後の指導にあたって	42
3. 生活や学習についてのアンケート	46
調査の概要	46
調査結果と分析	47
単純集計	47
クロス集計	55
資料 調査結果集計表	64

I 調査の概要

1. 調査の目的

全市的な規模で児童の学習状況を調査することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童の基礎学力の向上に役立てる。

2. 調査の内容

○国語・算数

調査の目的に基づき、学習指導要領に定める第4学年までの内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当な項目について調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

児童の学習や生活に対する意識等について明らかにするために、児童を対象とする意識調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立小学校の第5学年の児童

4. 調査実施日及び調査対象教科・人数

(1) 調査実施日

平成20年5月14日（水）

(2) 調査対象教科・人数

小学校第5学年

国語	10,976人
算数	10,983人
生活や学習についてのアンケート	10,999人

II 調査結果の概要

1. 国語

(1) 作問にあたって

- ① 基礎学力の向上に資するという本調査の目的に鑑み、基礎・基本の内容に限定して出題するよう努めた。
- ② 国語科の学習指導要領においては、目標・内容などが2学年ずつまとめて示されている。したがって本調査では主に第3学年及び第4学年で指導する内容の中から出題している。
- ③ 国語科の領域構成は「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び「言語事項」の3領域1事項からなっている。本調査の作問にあたっては、児童の学力の状況をなるべく広い範囲において把握していくために、すべての領域から出題することとした。しかしながら、ペーパーによる調査で測定することのできる学力は言語能力の中でもきわめて限られた部分に過ぎないことを踏まえ、「話すこと・聞くこと」の領域のうちの「話すこと」や言語事項のうちの書写などは、出題していない。また、「読むこと」の領域の中でも、音読にかかわる内容は出題できないなど、作問の内容もきわめて限定的なものにならざるを得ない。本調査は、あくまでも学力の一部を測定するものであることをご理解いただきたい。
- ④ 「言語事項」については基本的には各領域の学習を通して指導していくこととなっている。しかしながら、本調査では学力の状況を把握し易くするため、大問2及び大問3において、他領域とは独立した形で出題している。

(2) 領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
A	話すこと・聞くこと	①(1)(2)(3)	77.6
B	書くこと	⑥(1)(2)①②③④	65.5
C	読むこと	④(1)(2)(3)(4)(5)	72.5
		⑤(1)(2)(3)(4)(5)	
D	言語事項	②(1)①②③④	77.6
		(2)①②③④	
		③(1)(2)(3)(4)	

(3) 出題・観点等一覧 (次ページ)

出題・観点等一覧

問題番号				正答 (選択式→番号, 記述式→言葉)	観点				問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率(%)		
No	大問	中間	小問		話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能							
1	1	(1)		4	◎					だれがどのような順番で話しているかに気をつけて聞き取ることができる。	A(1)イ	96.1			
2		(2)		3	◎			①話の内容を聞き取る	①話すこと・聞くこと	話の中心に気をつけて聞くことができる。	A(1)イ	72.7			
3		(3)		1	◎					話の中心に気をつけて聞き、司会の役割を理解して聞き取ることができる。	A(1)イ	64.0			
4	2	(1)	①	なんきよく			◎	②漢字を読む	④言語事項	第四学年配当漢字を読むことができる。	言語事項(1)イ(ア)	95.5			
5			②	べんり			◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	言語事項(1)イ(ア)	96.5			
6			③	め			◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	言語事項(1)イ(ア)	96.3			
7			④	はたら			◎			第四学年配当漢字を読むことができる。	言語事項(1)イ(ア)	91.5			
8		(2)	①	病院			◎	③漢字を書く		第三学年配当漢字を書くことができる。	言語事項(1)イ(ア)	64.7			
9			②	洋服			◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	言語事項(1)イ(ア)	54.2			
10			③	味			◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	言語事項(1)イ(ア)	86.5			
11			④	起きる			◎			第三学年配当漢字を書くことができる。	言語事項(1)イ(ア)	66.2			
12			(1)	(1)		4				◎	④言葉の学習	④言語事項	修飾・被修飾の関係を理解している。	言語事項(1)オ(ア)	66.0
13				(2)		1				◎			文と文をつなぐ言葉(接続語)を理解している。	言語事項(1)オ(ウ)	90.7
14				(3)		2				◎			句読点を適切に打つことができる。	言語事項(1)ウ(イ)	50.2
15	(4)			かかしーかきーかぎーかこ		◎	国語辞典を利用して調べることができる。	言語事項(1)エ(イ)	72.4						
16	4	(1)		3		◎	⑤物語の内容を読み取る	③読むこと	叙述に即して、登場人物が思ったことを読み取ることができる。	C(1)ウ	81.3				
17		(2)		4		◎			叙述に即して、登場人物が思ったことを読み取ることができる。	C(1)ウ	90.0				
18		(3)		1		◎			叙述に即して、登場人物が考えたことを読み取ることができる。	C(1)ウ	89.3				
19		(4)		気にする					◎	叙述に即して登場人物が思ったことを読み取り、まとめることができる。	C(1)ウ	71.0			
20		(5)		2					◎	叙述に即して、場面の移り変わりを想像しながら読むことができる。	C(1)ウ	58.4			
21	5	(1)		4		◎	⑥説明文の内容を読み取る	③読むこと	段落の要点をとらえ、段落相互の関係を考えることができる。	C(1)イ	71.4				
22		(2)		2		◎			指示語の指示内容を理解して、文章を正しく読むことができる。	C(1)イ	89.0				
23		(3)		1					◎	段落の要点をとらえ、文と文のつながりを考えることができる。	C(1)イ	38.9			
24		(4)		前後に二本ずつ					◎	目的に応じて、内容を大きくまとめて文章を読むことができる。	C(1)オ	66.6			
25		(5)		3					◎	目的に応じて、細かい点に注意して文章を読むことができる。	C(1)オ	69.5			
26	6	(1)		①ウ、②ア、③エ、④イ (完答)			◎	⑦作文	②書くこと	段落相互の関係を考え、文章の組み立てを考慮することができる。	B(1)ウ	42.9			
27		(2)	①	(6行以上10行以内=101~200字で書く)			◎			相手や目的に応じて、適切に書くことができる。	B(1)ア	69.5			
28			②	(2段落構成で書く)			◎			段落と段落の続き方に注意して書くことができる。	B(1)エ	56.7			
29			③	(案内したい「場所」を書く)			◎			書く必要のある事柄を収集したり選択したりして書くことができる。	B(1)イ	80.7			
30		④	(案内したい「理由」を書く)			◎	自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えながら書くことができる。	B(1)ウ	77.7						

◎…主たる観点

※いずれも3・4年

(4)大問ごとの分析と考察

大問 1

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
1		(1)		1	1		1.0
				2	2		1.8
				3	3		0.3
				○ 4	4		96.1
				上記以外の解答	9		0.2
				無解答（無記入の場合）	0		0.6
				1	1	(2)	
2	2		6.8				
○ 3	3		72.7				
4	4		15.9				
上記以外の解答	9		0.2				
無解答（無記入の場合）	0		0.7				
3		(3)		○ 1			
				2	2		7.3
				3	3		5.4
				4	4		22.3
				上記以外の解答	9		0.2
				無解答（無記入の場合）	0		0.8

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「話すこと・聞くこと」の目標は、以下の通りである。

「相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気をつけて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。」

この問題では「目的に応じ、話の中心に気を付けて聞く力」を問うこととし、「要点などをメモにとりながら聞く」という言語活動を取り入れた。

(1) は、「今月のクラス集会で何をするか」というテーマの話し合いにおいて、どのような順番で意見が出てきたかを聞き取る問題である。話の順序・要点に気を付けるとともに、話の組み立てを意識して聞く力を問うている。

(2) は、話し合いの全体をとらえた上で、中心となる部分について正しく聞き取る力を問うている。

(3) は、「司会者の役割の工夫」を聞き取る問題である。司会者の話し合いの進め方に着目するなど、具体的な観点をもって聞く力を問うている。

児童にとって、放送問題を聞いて問いに答えるという経験は少ないだろうと予想し、日常的に十分経験したことのある学級会での話し合いの場面を想定して出題した。また、大事なことは一度で聞き取る習慣を身に付けさせたいという考えから、放送は繰

り返しをしないことにした。

なお、話すことについては、その力をペーパーテストで問うことは困難であるとの理由から、今回も設問から外した。

[3] 解説

「聞くこと」の平均正答率は77.6%であり、80.0%に迫る高い正答率であった。しかしながら、(1)の正答率が96.1%であったことに比べると、(2)は72.7%、(3)は64.0%とやや低くなっている。

(1)は話の順序性を問うものである。正答率が高かった理由の一つとしては、問題の冒頭において、ナレーターが「誰が、どんな意見を言ったか、メモをとりながら聞きましょう。」とメモをとる観点をあらかじめ与えていることが挙げられる。

話し合いについては、3人がクラス集会で何をしたいか提案した後に、司会者が話を整理して、その中から一つにしぼるために再び話し合いを行う、といった組み立てになっている。メモに「誰が」、「何をしたい」という内容を的確にメモしていたことが、正答率を高めた二つめの理由として挙げられる。

(2)は、話し合い全体をとらえた上で中心となる部分を正しく聞き取る問題である。「誰が」、「何をしたい」と言ったのかという基本的な内容に加え、その理由もしっかりとメモしていないと正解できない問題である。ここでは、中川さん、平田さんがそれぞれ発言した2回目の意見が話し合いの中心部分となっている。中川さんが「場所」という視点から大なわに賛成し、平田さんは「時間」という視点から大なわに賛成している。ここを聞き取れるかが一番のポイントとなってくる。解答類型別の出現率からは、中川さんが言った正解の選択肢3「少しの場所があれば行くことができるから。」ではなく、平田さんが言った選択肢4の「今、体育の時間にも行っているから。」を選んでいる児童が15.9%いることが分かる。このことから、話し合いの中心点についてメモすることができなかつたと考えられる。

テスト中の児童がメモをとる様子を考えると、一つのことを詳細にメモし過ぎたり記述の文が長くなったりということが原因でメモが追いつかなかつたり、大事な言葉を聞き逃してしまつたりするのではないかと思われる。今後も、大事なポイントや連絡事項などを短い言葉でメモする、箇条書きで的確にメモする、といった日常的な指導の積み重ねが求められる。また、国語科の授業以外の場面（例えば、他教科などにおける見学や話し合い、インタビュー活動など）においても、メモをとる活動を積極的に取り入れていきたい。

(3)は司会者の役割の工夫を問うものである。選択肢1の「ところどころで、出された意見を整理していた。」が正解であり、司会者は話し合いの中間と後半部分で一度ずつ、出された意見を整理している。解答では選択肢4の「最後に多数決をとって、結論を出していた。」を選んだ児童が22.3%もいた。司会者が最終的に意見をまとめた部分を多数決ととらえてしまったための間違いであると考えられる。

新しい学習指導要領の第3学年及び第4学年では、「話すこと・聞くこと」の内容(1)のオ「互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。」といった司会に関する内容が新たに加わったことから分かるように、さまざまな場面で活かされるその役割は今後ますます重要になってくる。メモをとる活動と同様に、国語科の授業以外の場面でも、司会の意味、その内容や方法を学んでいくことが大事である。学級活動や委員会活動、日常の少人数での話し合いなど、さまざまな場面を通して、意図的に司会者の役割を指導していきたい。

大問 2

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)		
No	大問	中間	小問						
4		(1)	①	○ なんきょく	1		95.5		
				ほつきょく	2		0.8		
				上記以外の解答	9		2.1		
				無解答（無記入の場合）	0		1.7		
			5	②	○ べんり	1		96.5	
					「便」部分を「びん」と書いた場合	2		0.0	
					上記以外の解答	9		1.9	
					無解答（無記入の場合）	0		1.6	
			6		③	○ め	1		96.3
						が	2		0.0
						きば	3		0.1
						は	4		0.6
上記以外の解答	9					1.7			
無解答（無記入の場合）	0					1.1			
7		④	○ はたら	1		91.5			
			うご	2		5.7			
			「はたら<u>く</u>」と送り仮名まで書いた場合	3		0.1			
			上記以外の解答	9		1.7			
			無解答（無記入の場合）	0		0.9			
8	2	①	○ 病院	1		64.7			
			「病」だけが誤答だった場合	2		13.5			
			「院」だけが誤答だった場合	3		4.0			
			上記以外の解答	9		6.0			
			無解答（無記入の場合）	0		11.8			
9		②	○ 洋服	1		54.2			
			「洋」だけが誤答だった場合	2		15.3			
			「服」だけが誤答だった場合	3		5.9			
			上記以外の解答	9		9.4			
			無解答（無記入の場合）	0		15.2			
10		③	○ 味	1		86.5			
			へんとつくりを左右逆に書いた場合	2		1.6			
			上記以外の解答	9		5.0			
			無解答（無記入の場合）	0		6.9			
11		④	○ 起きる	1		66.2			
			「へん」部分が間違っていた場合	2		1.1			
			「つくり」部分が間違っていた場合	3		2.0			
			「起」は書けているが送り仮名が未記入あるいは間違っていた場合	4		10.8			
			上記以外の解答	9		6.7			
			無解答（無記入の場合）	0		13.2			

[2] 出題のねらい

学習指導要領において漢字の扱いは、以下のようになっている。

「第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年に配置されている漢字を漸次書くようにすること。」

学年別配当漢字の「読み」は当該学年において、「書き」は次の学年までに定着を図ることになっている。そこで「読み」については第4学年までに、「書き」については第3学年までに配当された範囲から出題した。

(1)の①南極(ナンキョク)、②便利(ベンリ)は、音読みの熟語を読む力、③芽(め)は、送り仮名のない訓読みの漢字を読む力、④働く(はたらく)は、送り仮名のある訓読みの漢字を読む力を問うている。

(2)の①病院(ビョウイン)、②洋服(ヨウフク)は、音読みの熟語を書く力、③味(あじ)は、送り仮名のない訓読みの漢字を書く力、④起きる(おきる)は、送り仮名のある訓読みの漢字を書く力を問うている。(1)、(2)とも、音読み・訓読みの問題を、送り仮名の有無も含めた4種類のバランスを考慮して出題した。

第3学年及び第4学年では、第1学年及び第2学年で習う漢字に比べ、配当漢字の数やそれぞれの漢字の画数が多くなることから、漢字学習に抵抗を感じる児童も出てくる。半面、熟語として扱う文字が増えたり、漢字のつくりや辞書の使い方について学習したりする機会が増えてくる。それらのことと関連させるなどして、学習指導方法を工夫すれば、意欲に結び付けることもでき、成果も期待できるであろう。

[3] 解説

「読み」は平均正答率が95.0%と良好である。いずれの漢字も正答率が90.0%を超えており、定着していることが伺える。その要因として、出題された語句は日常的に見聞きする機会が多く、想起し易かったということが考えられる。引き続き、各々の漢字の読み方を正確に覚えるとともに、文脈に沿って正しく語として理解できるようにしたい。

「書き」については平均正答率が67.9%であった。その中でも「洋服」については54.2%と低い正答率だった。誤答した児童の15.3%が「洋」を正しく書けていなかった。「起きる」については、「起」は書けても送り仮名の誤りや未記入が目立った。また、「病院」、「洋服」、「起きる」には、10.0%以上の無解答が見られた。日常的な書く活動において既習漢字を使わず、平仮名表記で済ませてしまっていることが原因と思われる。漢字学習においては、そのねらいを「文や文章の中で使う」としており、日常生活での使用が求められている。日頃から既習漢字を積極的に使う場面を設定し、指導することを通して定着を図りたい。

大問 3

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
12		(1)			1	1	3.4
					2	2	3.6
					3	3	25.9
				○	4	4	66.0
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.0
				13	3	(2)	
	2	2	4.4				
	3	3	1.4				
	4	4	2.6				
	上記以外の解答	9	0.1				
	無解答（無記入の場合）	0	0.8				
14		(3)					
				○	2	2	50.2
					3	3	5.0
					4	4	7.2
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.3
				15		(4)	
	4番目が「かかし」の場合	2	7.7				
	4番目が「かぎ」の場合	3	12.8				
	上記以外の解答	9	5.1				
	無解答（無記入の場合）	0	2.0				

[2] 出題のねらい

学習指導要領に記載されている〔言語事項〕のうち、「ウ 表記に関する事項」の句読点の適切な打ち方の理解について、「エ 語句に関する事項」の辞書を利用して調べる方法の理解について、「オ 文及び文章の構成に関する事項」の文の構成の初歩的な理解について、それぞれの指導内容の定着度を測る問題である。

(1) は、修飾語がくわしくしている言葉を探す問題である。修飾語を適切に理解し、使うことを通して情報量が増し、表現力もより豊かになっていく。ここでは修飾語のもつ働きについて初歩的な理解を問うている。過去の3回の調査でも同様の出題をしてきたが、定着度はまだ不十分であることを踏まえ、継続的に出題をした。

(2) は、文と文とのつながりを考えて接続語を選ぶ問題である。接続語は、文章の構成にかかわる語で、文章の論理的な関係を把握する上で大切な役割を果たしている。文脈に沿って接続語を適切に使えるかを問うている。

(3) は、絵の内容に合うように、文中の句読点の適切な位置を選ぶ問題である。句読点は、位置によって文の意味や構成が変化するため、適切に表現したり、正確に理解したりする上できわめて重要である。ここでは、文を構成していく力を問うている。

(4) は、国語辞典を利用する際の語句の並び順を考える問題である。辞書を活用する知識・技能や態度、習慣の基礎は、第3学年及び第4学年で学習する内容である。今回は、辞書の引き方の定着度をみる問題にした。

[3] 解説

(1) は、「すいすい」の直後にある「泳いでいる」が正解であり、文の構造としては比較的易しいものである。誤答で「めだか」を選んだ児童が 25.9%いたのは、「すいすい」泳いでいるのは何かと考えて答えを導き出したと考えられる。「三びき」と答えた 3.6%の児童は、修飾と被修飾の関係の原則や問題の意図を理解していないと考えられる。(1)の正答率は昨年の 53.0%に対して、今年度は 66.0%と上がった。この学習内容は、第3学年及び第4学年に設定されている。こうした〔言語事項〕は、取り立て指導のみでは定着が図られにくい。今後も「読むこと」や「書くこと」の領域においても継続的、意図的に指導していきたい。指導法としては、言葉の意味だけに着目させるのではなく、文脈に沿って内容を考えさせるようにしたり、文章の一部分を視写させ、その中からくわしくする言葉を見つけさせることによって読みを深めたりするなど、言葉と語の関係を具体的に上げていくことが重要である。

(2) の正答率は、90.7%と高かった。「しかし」を選んだ誤答が 4.4%あったのは、「雨」と「せんたく物をほす」ということの結び付きから答えを導き出したと考えられる。接続語は、文章の構成にかかわる語で、文章の論理的な関係を把握する上で大切な役割を果たしている。3領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」）の学習活動において、指導の繰り返しを図る必要がある。

(3) の正答率は 50.2%で、〔言語事項〕の全問中最も低い正答率となった。「母は」の後に読点を打つという誤答率が 36.1%と多かったのは、「かさを持って」が「追いかけた」を修飾する結果になることを考えなかったと思われる。句読点は、位置によって文の意味や構成を変化させる場合がある。文を適切に表現し正確に理解するために、句読点の働きを理解することは重要である。句読点を適切に打つことは、(1)の修飾と被修飾との関係と同様に、文の構成について初歩的な理解をもつことの指導と関連付けながら行うことが望ましい。

(4) の正答率は、72.4%と良好である。4番目を「かぎ」とした誤答が 12.8%あった。これは、清音「かき」の次に濁音「かぎ」がくるという順序性を理解しておらず、単に濁音が最後にくると考えたからであろう。また、4番目を「かかし」とした誤答が 7.7%あったのは、字数に惑わされて他より1字多いことを理由にしたと思われる。一般的に、語句の理解においては、まず、国語辞典や漢和辞典などを活用する習慣を付けていく指導が不可欠である。そのためにも、必要なときにはいつでも辞書が手元にあって使えるように環境を整える配慮をしておくことが大切である。

大問 4

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
16	4	(1)			1	1	6.2
					2	2	6.0
				○	3	3	81.3
					4	4	5.0
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.4
				17	(2)		
	2	2	2.4				
	3	3	4.2				
○	4	4	90.0				
	上記以外の解答	9	0.1				
	無解答（無記入の場合）	0	1.6				
18	(3)		○				1
				2	2	1.8	
				3	3	4.1	
				4	4	3.1	
				上記以外の解答	9	0.1	
				無解答（無記入の場合）	0	1.7	
			19	(4)		○	気になる
	心配する	2				1.3	
	上記以外の解答	9				18.4	
	無解答（無記入の場合）	0				9.3	
20	(5)			1	1	6.7	
			○	2	2	58.4	
				3	3	18.2	
				4	4	9.4	
				上記以外の解答	9	0.3	
				無解答（無記入の場合）	0	7.0	

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、以下の通りである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

第1学年及び第2学年では、時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むことであったが、第3学年及び第4学年では、文章全体の構成などを考えて、より正確に文章を読み取ることが求められている。

文学的な文章では想像しながら読み進めていく力、すなわち、「場面の移り変わりや情景、人物の心情などを、叙述を基に想像しながら読む力」を身に付けさせたい。

(1)、(3)は前後の叙述を手がかりに心情を読み取る問題、(4)は前後の叙述から空欄に入る言葉を考える問題、(2)は文脈における言葉の意味に注目して様子を読み取る問題、(5)は物語の場面を分ける問題である。

[3] 解説

(1)は、「コウちゃんが足の痛さを自分たちにかくした時のぼくの気持ち」を読み取る問題である。正答率は81.3%と良好である。これは下線部直後の「どうしてかくすんだ。」という「ぼく」の内面を表す言葉から直接、本当のことを言ってほしい「ぼく」の気持ちを読み取ることができた結果だと思われる。下線部前後の叙述と関連付けて想像することにより、登場人物の心情については読み取り易かったと思える。

(2)は、コウちゃんがけがをしたことに対する「ぼく」の思いを読み取る問題である。正答率は、90.0%と高い結果である。文中にある「…どうすることもできない自分がなさけなかった」、「…ぼくたちを何度も助けてくれたのに」、「ぼくらは～何ひとつしてあげられない…」などの箇所を手がかりに文脈を読み取ることで正答を得ることができる。選択肢1、2は、設問をていねいに読むことで、誤答であることが分かる。また、選択肢3は、「何かできないのか、何か」のぼくの気持ちを読み取ることで誤答であることが分かる。誤答を選択した児童には、叙述から登場人物の様子を読み取る力を育てたい。

(3)は、「ぼく」の考えを文脈に沿って正しく読み取り、別の言葉に置き換えて答える問題である。下線部の直前の「ぼく」の会話文やその前の文章を読むと、「ぼく」が「どんな場面」で「どのような考え」をみんなに提案したのかが分かる。「どんな場面」というのは、コウちゃんが遅れ出したときである。「どのような考え」とは、少しペースを落としてということである。これを「おくれないように、ゆっくり」という選択肢に結び付けることができれば、正しく答えることができる。正答率は89.3%と良好である。誤答を選択した児童には、本文の記述をていねいに読む力を育てたい。

(4)は、香織の気持ちをまとめた文章の抜けている言葉を本文中から探して書き出す問題である。「テキスト」と「テキストを再構成した文章」とを関連させながら考える力を問う新しい形式の問題である。正答率は71.0%と他の問題に比べてやや低い結果となった。誤答を選択した児童や無解答だった児童には、課題や目的に応じて二つの文章を比較して読む学習経験をさせることが大切である。また、人物の会話文からその気持ちをまとめるような読みも授業で行いたい。誤答にあった「心配する」と正答の「気にする」では、物語の文脈における意味が異なる。日頃から物語文を教材にした学習の中で、児童の言語感覚(言葉の適否)を磨いていくことが求められる。また、「文章中からさがして書き出す」ことに慣れていない解答も目立った。ふだんの読みの授業の中で、文章中の重要語句をノートに抜き出して書かせるなどの活動も取り入れたい。

(5)は、物語のまとめ(場面)相互の関係性の理解を問う問題である。58.4%と低い正答率である。前年度の同型の問題でも38.4%であり、読むことの学習において、課題の一つと考えている。「場面を分ける」とは、ここでは「時間や場所」の移り変わりで文章を分けることである。誤答として、選択肢3と解答した児童が18.2%いる。これは「また、コウちゃんがおくれた」という箇所を手がかりに、場面の変化を考えたと思われる。選択肢4を選び、誤答となった児童は9.4%である。この後の「ぼく」の提案によって場面の変化をとらえたと思われる。

物語文の「読むこと」の指導においては、叙述に即して場面の移り変わりを想像しながら読む力を育成していきたい。手立てとしては、例えば、場面の移り変わりを、叙述(キーワード、キーセンテンス)と関連付けて想像しながら読ませていくことや、場面ごとに声に出して読ませていくことなどが考えられる。

大問5

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
21		(1)		1	1		6.5
				2	2		14.5
				3	3		4.4
				○ 4	4		71.4
				5	5		0.5
				上記以外の解答	9		0.4
				無解答（無記入の場合）	0		2.5
22		(2)		1	1		4.4
				○ 2	2		89.0
				3	3		1.4
				4	4		2.8
				上記以外の解答	9		0.2
				無解答（無記入の場合）	0		2.3
23	5	(3)		○ 1	1		38.9
				2	2		16.2
				3	3		18.8
				4	4		17.9
				上記以外の解答	9		2.8
				無解答（無記入の場合）	0		5.5
24		(4)		○ 前後に二本ずつ	1		66.6
				かぎ状のつめが	2		2.7
				二本ずつ分かれ	3		3.5
				上記以外の解答	9		15.0
				無解答（無記入の場合）	0		12.2
25		(5)		1	1		11.3
				2	2		9.8
				○ 3	3		69.5
				4	4		4.0
				上記以外の解答	9		0.3
				無解答（無記入の場合）	0		5.1

[2] 出題のねらい

学習指導要領において第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、以下の通りである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

ここでいう「中心」とは、一般には「中心語」、「中心文」、「中心段落」など、文章全体の中で相対的に重要と位置付けられている部分のことである。中心をとらえ

るためには、接続語、指示語、繰り返し語句などの役割を押さえながら段落相互のつながりを理解し、内容や要点を的確に把握することが必要である。そうした力の定着度を測るために以下のような問題を設定した。

(1) は、フクロウが音も立てずに飛び回れる理由が説明されている段落を選ぶ問題である。段落の要点をとらえ、段落相互の関係を読み取る力を問うている。

(2) は、「その方角」の指示語が指している内容を選ぶ問題である。指示語の指示内容を理解して、文章を正しく読み取る力を問うている。

(3) は、段落の内容や文脈を読み取り、問題に示された一文を入れる箇所を選ぶ問題である。段落の要点をとらえ、文と文とのつながりを考える力を問うている。

(4) は、示された項目にふさわしい言葉を、本文中から探して空欄箇所に挿入し、表を完成させる問題であるが、「テキスト」と「テキストを再構成した文章」とを関連させながら考える新しい形式の問題でもある。目的に応じて内容を大きくまとめて文章を読む力を問うている。

(5) は、文章に書かれている内容を正確に読み取って、正しい内容を選ぶ問題である。細かい点に注意して文章を読む力を問うている。

[3] 解説

(1) の正答率は 71.4%と概ね良好であった。第4段落の最初に「なぜ羽音をたてずに飛ぶことができるのでしょうか。」という問いかけの記述があり、続いてその理由が述べられている。ここを的確に読むことができれば、正答できる問題である。なお、誤答としては、選択肢2が 14.5%と少なくなかった。これは、問題の意味や段落ごとの内容を十分にとらえず、第2段落中の「音もなくえものに近づくと」という文節の言葉にのみ着目したことによるものと思われる。

(2) は、フクロウが目指す方向がどの方向か、指示語の示す内容を正しくとらえ、選択肢から選ぶ問題である。問題となっている指示語のある文章の直前の文中に「カサッ、カサッ。」という擬音語があり、また、同じ文の中に「えものが音をたてると」という記述がある。そこに着目すれば、指示語の示す内容をとらえることができる。正答率は 89.0%と良好であった。

(3) は、問題に示された一文について、その内容をとらえ、段落の要点や文のつながりを考えて、挿入するのに最もふさわしい箇所を選ぶ問題である。正答率は 38.9%と、全問題中最も低い結果となっている。何を「羽で包みこむようにして、強くおさえこむ」のか、ということを考えれば、挿入する文の内容がえものに関してのことであり、さらにはえものの捕らえ方についての記述であることに気付くであろう。えものの捕らえ方について書かれているのは第2段落である。さらに挿入する文の中の「それから」という接続詞を手がかりに、文と文とのつながりを考えれば正答に結び付く。しかし、18.8%の児童が、羽の特徴について記した第4段落の後の選択肢3を選んでいった。文脈を読み取れず、段落の要点よりも、「羽」、「包まれている」といった、挿入する文の中にあるものと同じような記述にのみ着目したためと思われる。段落の要点や文章の意味、つながりを的確にとらえる力を養いたい。

(4) は、フクロウの体について、本文に書かれていることをまとめた表の空欄に、本文からふさわしい言葉を探して挿入し、表を完成させる問題である。問題となっている「足の指」について書かれているのは第5段落である。その中から「ある。」という語尾につなげることができる7文字の言葉を見つければ正答できる。正答率は、66.6%で、12.2%が無解答であった。解答形式が記号でなく、短答記述の形式であることも原因として考えられる。

(5) は、本文に書かれている内容と一致する内容の文を選ぶ問題である。正答率は 69.5%で、誤答では 11.3%の児童が選択肢1を選んだ。第3段落の「わずかな光があれば」の部分を読み取ることができず、夜でも物がよく見えるということだけを手がかりにして答えたものと思われる。叙述に即して、正確に読み取る力を育成したい。

大問 6

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
26	6	(1)		○ ①ウ ②ア ③エ ④イ (完答)	1		42.9
				①ア ②ウ ③エ ④イ	2		22.6
				①ウ ②ア ③イ ④エ	3		9.4
				①ウ ②エ ③ア ④イ	4		0.6
				上記以外の解答	9		19.1
				無解答 (無記入の場合)	0		5.4
27	6	(2)	①	○ 6行以上10行以内(101字以上200字以内)で書いている場合	1		69.5
				11行以上(201字以上)で書いている場合	2		0.3
				上記以外の解答	9		14.9
				無解答 (無記入の場合)	0		15.3
28	6	(2)	②	○ 2段落構成で書いている場合	1		56.7
				2段落に分けて書いているようだが、段落の書き始めの1マス空けができていない場合	2		4.9
				3段落以上で書いている場合	3		12.9
				上記以外の解答	9		10.1
				無解答 (無記入の場合)	0		15.3
29	6	(2)	③	○ 「案内したい場所」について書かれている場合	1		80.7
				上記以外の解答	9		4.0
				無解答 (無記入の場合)	0		15.3
30	6	(2)	④	○ 「その場所を案内したい理由」について書かれている場合	1		77.7
				「好きだから」、「いいところだから」などだけで、理由が明確でない場合	2		0.3
				上記以外の解答	9		6.7
				無解答 (無記入の場合)	0		15.3

[2] 出題のねらい

学習指導要領において第3学年及び第4学年の「書くこと」の目標は以下の通りである。

「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」

書いて紹介する題材について、昨年度の「学校のおすすめの場所」から「外国人に紹介したい、日本の有名な場所や自分の住んでいる町」と、記述の対象を広げた出題にした。中学年社会科や総合的な学習の時間で身に付けた知識や内容を、国語科の中で活かしてほしいという出題の意図である。

(1)は、4枚の取材カードを並べ替え「初め」、「中」、「終わり」の欄に入れて、構想メモを完成させる問題である。ここでは段落相互の関係に留意して、文章の構成

を工夫する能力を問うている。段落意識をもって適切な文章を書くためには、記述の際だけではなく、書く材料の収集、選択、構成などにおいても工夫が必要である。

(2) は、与えられた条件の中で自分の考えをまとめ、指定された行数の中で構成を考えながら記述する問題であり、表現しようとする意欲、態度と技能を問うている。これは、ここ数年来指摘されている日本の児童・生徒の「記述式の問題についての無解答率の高さ」という課題が、川崎市の児童にも当てはまるかを知りたいと考え、継続的に出題しているものである。

[3] 解説

(1) の正答率は、42.9%と低く、昨年度の55.0%をかなり下回っている。4枚のカードを「初め」、「中」、「終わり」に並び替える問題である。4枚のカードは、「問題提起」、「調査方法」、「調査結果」、「まとめ」と、調べたことをまとめる際の基本的な組み立てになっている。22.6%が、「問題提起」の前に「調査方法」を入れてしまっていた。カードの書き出し部分と文末表現が似ていたことで、内容をつかみにくかったのではないかと考えられる。「調査結果」、「まとめ」については、74.9%はこの2つを後半に入れることができたが、そのうち9.4%が2つの順番を逆(まとめ→結果の順)にしていた。「調査結果」＝「結論」と考えたため、最後に置いてしまったと考えられる。解答時に時間的なゆとりがなかったことも要因の一つと考えられるが、文章内容をよく吟味して把握すること、「問題提起をしてから調査方法を考える」という思考の流れに沿った文章の構成への理解が不足していることも原因に挙げられる。実際の「書くこと」の指導の中で、構成メモを活用させ、段落意識を高めていく必要がある。

(2) は、与えられた条件(内容)を基に自分の考えを明確にもち、指定された条件(形式)で、構成を考えながら記述する問題である。4つの注意点を示し、評価の基準にしている。

(2) の①は、指定された字数で自分の考えをまとめる問題である。正答率は、69.5%であり、概ね良好であった。しかし、昨年の正答率73.4%よりは低い結果となっている。字数を超えてしまった解答は0.3%しかないことから、解答するための時間の不足も原因に挙げられる。

(2) の②は、「事例」と「理由」を2段落構成で書く問題で、正答率は56.7%と、やや低い結果である。誤答の中で、3段落以上で書いている児童が、12.9%いた。意味のまとまりと段落が結び付いていないことや「一文改行」の癖が付いていることなどに加えて、設問の指示をよく読んでいないことが予想される。段落の役割や改行の意味について、日常的に意識させながら指導をしていく必要がある。

(2) の③は、「案内したい場所」を書く問題で、正答率80.7%であった。問いに対して、書く必要のある事柄を選択することができ、さらにその内容を書くことができていると分かる。

(2) の④は、「案内したい場所」の「根拠」、「理由」について書く問題である。正答率77.7%と概ね良好であった。③の80.7%と比べてもさほど変わらないことから、「場所」を選択できている児童は、「根拠」、「理由」も選択することができている。

(2) の無解答率は15.3%と、国語の設問の中でも高く、昨年度の10.6%を上回っている。最後の設問であるため時間不足ということも考えられる。しかし、書く力を今後向上させていくためにも、他教科との関連なども考慮しながら日常的に「相手や目的に応じて自分の考えを適切に書く」活動に取り組みさせていく必要性を強く感じる。

(5) 今後の指導にあたって

○話すこと・聞くこと【大問1】

「聞くこと」についての調査結果は、昨年に引き続き概ね良好であった。聞いた内容を整理しながらメモをとることは聞く力を確かなものにする。国語の学習はもとより、他教科の学習や諸連絡の場などにおいても、メモの積極的な活用を図りたい。実際の場を通して、事柄の順序や要点、中心などを押さえて、組み立て方を意識しながらメモをとることのできる力を育てていきたい。また、話し合いの目的を明確にし、目的を達成するためには、意見を整理し、まとめる司会者の役割がとても重要である。さまざまな話し合い活動の場を通して、意図的、具体的に児童を司会者として育てていくことが大切である。

○書くこと【大問6】

構成メモを完成させる問題と、与えられた条件を基に記述する問題を出題したが、概ね良好であった。調べたことを文章にまとめるときの基本的な組み立て（「問題提起」、「調査方法」、「調査結果」、「まとめ」）については、実際の作文指導の中で、構成メモを活用させ、段落相互の関係や役割を具体的に理解させたりすることにより身に付けさせたい。また、他教科や総合的な学習の時間との関連を考慮しながら、日常的に「相手や目的に応じて自分の考えを適切に書く」活動に取り組ませたい。この結果に満足することなく、相手意識、目的意識、場面意識、方法意識、評価意識をより明確にした書く活動に取り組ませることで、書く力の向上を図りたい。

○読むこと【大問4・5】

読む力は、物語文、説明文いずれにおいても一部の問題を除いて概ね良好であった。全体的に細かい点にまで注意して叙述をていねいに読む力を育てていく必要性を感じた。物語文では、キーセンテンスやキーワード（重要語句）と関連付けて情景や心情を読み取ったり、場面相互の関係について考えたりする指導に力を入れたい。また、説明文においては、指示語や接続語の役割、段落の要点のとらえ方、段落相互の関係などの指導をどのように工夫するのが今後の課題である。学習者主体の読みの活動は大前提であるが、どのような言葉の力を付けたいかが不明瞭な学習活動で終わることなく、言語の教育であるという原点に立ち返って、一つ一つの叙述にじっくりと向き合って読む姿勢と能力を育てていきたい。

○言語事項【大問2・3】

漢字の「読み」については、良好な結果であった。いずれの出題漢字も定着していることが伺える。「書き」については、「洋服」が正しく書けていなかったり、「起」は書けても、送り仮名の誤りや未記入にしていたりする児童が少なくなかった。漢字や熟語のつくりに関心が向くような指導を工夫したり、国語辞典を身近に置いて活用する習慣を付けさせたりしたい。あるいは、作文やノート、日記や連絡帳などさまざまな書く場において日頃から既習の漢字を積極的に使うように指導し、定着を図っていききたい。また、文法的な内容である修飾・被修飾を問う問題での正答率は良好とは言えないが、過去2年間よりも30.0%強向上した。「句読点の適切な打ち方」の理解を問う問題では、正答率は昨年を引き続き、芳しい結果ではなかった。こうした〔言語事項〕は、一度学習しただけではなかなか定着しないものである。3領域の中でも繰り返し指導し、定着を図っていく必要がある。取り立て指導だけでなく、例えば文脈に沿って内容を考えさせたり、表現の工夫や効果に気付かせたりする（修飾語、句読点などの「ある」、「なし」で比較したり…など）指導も有効である。今年初めて出題した「国語辞典を利用する際の語句の並び順を考える問題」は、正答率が良好であった。日頃の国語学習において、児童が必要に応じて辞書を活用できる環境づくりが大切である。

◎全体を通して

全体としては概ね満足できる結果が得られたが、今後取り組むべき課題も見えてきた。この調査は「指導に活かす」ことを目的として実施されたものであるから、各学校、各学級においても課題を整理し、各大問の「出題のねらい」、「解説」を参考にし、明日からの国語学習の指導の改善に活かしていくことが望まれる。なお、言葉の力を育てるには、国語の時間に指導することを中核としながら、学校教育全体で取り組むことも大切である。言語環境を整備したり、読書活動を充実させたりするなど、教育課程の全体を通して育てていくよう、各学校において工夫されることが望まれる。

2. 算 数

(1) 作問にあたって

- ① 川崎市全体における第5学年の学習状況を把握するため、より客観的なデータが得られるように作問を行った。したがって、出題範囲を第4学年までとし、基礎・基本の定着の様子をみることができる問題を作成した。また、過去の問題と関連したものも出題することによって、解答傾向の推移も把握できるように配慮した。
- ② 学習指導要領において、算数科は「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の4領域で構成されている。そこで、幅広い範囲において学習状況を把握していくために、4領域の項目についてすべて網羅するように出題した。
- ③ 主たる評価観点を考えた上で問題を作成したが、「算数への関心・意欲・態度」の評価観点については、ペーパーテストでみることは難しいと考え、評価の観点としては取り上げないことにした。他の「数学的な考え方」、「数量や図形についての表現・処理」「数量や図形についての知識・理解」の3観点については網羅するようにした。しかし、「数学的な考え方」は、本来、論理的な思考過程をみるものであり、ペーパーテストでは表出しにくい面があることを念頭に入れておく必要がある。
- ④ 本調査は、子どもたちの学習の実現状況を把握するとともに、「生きる力」を育む教育課程や指導法の検証・改善に活かすことなどをねらいとして行われるものである。したがって、作問にあたっては、誤答からなぜそうした間違いをするのか、調査後どのような点に気を付けて指導していけばよいのかが分かるように配慮した。

(2) 領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
A	数と計算	1 (1) (2) (3) (4)	70.9
		2 (1) (2) (3) (4) (5)	
		3 (1) (2) 4 (1) (2)	
		7	
B	量と測定	8 (1) (2) 9	75.7
		10 (1) (2) (3)	
C	図形	11 (1) (2) (3) (4)	66.0
		12 (1) (2)	
D	数量関係	1 (5) (6) 5 6	78.4
		13 (1) (2) 14 (1) (2)	
		15	

(3) 出題・観点等一覧 (次ページ)

出題・観点等一覧

問題番号				正答	観点			問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	正答率(%)	
No.	大問	中問	小問	(選択式→番号, 記述式→言葉)	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解						
1	1	(1)	15.3		◎			A数と計算	①分数, 小数	小数第一位までの小数の加法ができる。	4年A(4)ウ		90.6
2		(2)	21.8		◎					小数第一位までの小数の減法ができる。			
3		(3)	13あまり1		◎			D数と計算	②わり算	(2けた)÷(1けた)の余りのある除法ができる。	4年A(3)ア, イ		82.5
4		(4)	5		◎					(2けた)÷(2けた)の除法ができる。			
5		(5)	8		◎			D数量関係	③式と計算	四則混合計算ができる。	4年D(2)ア		82.8
6		(6)	20		◎					()を使った四則混合計算ができる。			
7	2	(1)	3.7		○	◎	①分数, 小数	A数と計算	①分数, 小数	小数のしくみを理解し, 1と0.1の個数から, その数を表すことができる。	4年A(4)ア, イ		91.7
8		(2)	1/8			◎				分数が単位分数のいくつ分かで表せることがわかる。			
9		(3)	1 2/3(5/3)			◎				数直線上に示された分数をよみとることができる。			
10		(4)	18/7		◎	○				帯分数を仮分数で表すことができる。			
11		(5)	19/6, 3, 2 5/6(完答)			◎				分数の大きさがわかり, 仮分数・帯分数・整数を大小順に並べることができる。			
12	3	(1)	④		○	◎	④大きな数	A数と計算	④大きな数	位取り記数法を理解し, 10億の個数から, その数を表すことができる。	4年A(1)ア		44.1
13		(2)	③		○	◎				命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。			
14	4	(1)	87000		◎	○	⑤がい数	A数と計算	⑤がい数	四捨五入を理解し, 上から2けたの概数で表すことができる。	4年A(2)イ		71.3
15		(2)	②	◎		○				概数に対応する数の範囲がわかり, 図を選択できる。			
16	5		(左から)+, ×	◎	○		③式と計算	D数量関係	③式と計算	計算順序に関する文章問題を式に表すことができる。	4年D(2)ア		78.2
17	6		①	◎	○	○	③式と計算	D数量関係	③式と計算	四則混合計算の仕方がわかり, 指定された式になる問題を選択できる。	4年D(2)ア		70.5
18	7		④	◎	○	○	②わり算	A数と計算	②わり算	倍とわり算の問題を図に表すことができる。	4年A(3)ア		49.3
19	8	(1)	②			◎	⑥面積	B量と測定	⑥面積	適切な面積の単位がわかる。	4年B(1)ア		80.8
20		(2)	(式)9×6(=54) (答え)54(cm)		○	◎				長方形の面積を求めることができる。			
21	9		③	◎	○	○	⑥面積	B量と測定	⑥面積	複合図形の面積の求め方を考えることができる。	4年B(1)イ, ウ		74.0
22	10	(1)	140(度)		◎	○	⑦角	B量と測定	⑦角	分度器を用いた角度のはかり方がわかる。	4年B(2)ア, イ		82.2
23		(2)	70(度)		○	◎				角の性質がわかり, 直線が交わってできる角の大きさがわかる。			
24		(3)	40(度)	◎		○				回転の大きさを表す量として角の大きさをとらえることができる。			
25	11	(1)	い(と)え(順不同, 完答)			◎	⑧円と球, 三角形	C図形	⑧円と球, 三角形	いろいろな三角形の中から, 二等辺三角形を選択することができる。	4年C(1)ア		62.8
26		(2)	9(まい)	◎	○					正三角形の性質がわかり, しきつめの図を考えることができる。			
27		(3)	①	◎		○				正三角形の性質がわかり, 適用問題ができる。			
28		(4)	略(5cm, 5cm, 8cmの二等辺三角形)		◎	○				二等辺三角形の作図ができる。			
29	12	(1)	②			◎	⑧円と球, 三角形	C図形	⑧円と球, 三角形	円の半径がわかる。	4年C(1)ウ		70.1
30		(2)	4(こ)	◎	○	○				球の直径がわかり, 適用問題ができる。			
31	13	(1)	2(月)		◎	○	⑨折れ線グラフと表	D数量関係	⑨折れ線グラフと表	折れ線グラフから, ある気温の月をよみとることができる。	4年D(1)イ		89.9
32		(2)	④		○	◎				折れ線グラフの気温の変わり方が一番大きい箇所を指摘できる。			
33	14	(1)	ア10, イ35(完答)		◎	○	⑨折れ線グラフと表	D数量関係	⑨折れ線グラフと表	二次元表のよみ方・かき方がわかる。	4年D(3)ア, イ		86.3
34		(2)	8(人)		◎	○				二次元表のよみ方がわかる。			
35	15		5(こ)	◎	○	○	⑩変わり方	D数量関係	⑩変わり方	伴って変わる二つの数量の関係をとらえることができる。	4年D(1)ア		58.9

【観点】◎…主たる観点 ○…従たる観点

(4)大問ごとの分析と考察

大問 1

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
1	1	(1)		○ 15. 3	1		90.6
				22. 5	2		0.4
				14.13	3		0.1
				1. 53	4		1.9
				上記以外の解答	9		6.6
				無解答	0		0.5
2	1	(2)		○ 21. 8	1		65.4
				11	2		1.9
				1. 1	3		15.0
				22. 2	4		5.0
				上記以外の解答	9		11.7
				無解答	0		1.0
3	1	(3)		○ 13あまり1 または 13・・・1	1		82.5
				13. 1	2		0.4
				1	3		0.2
				14	4		0.1
				上記以外の解答	9		14.1
				無解答	0		2.7
4	1	(4)		○ 5	1		84.0
				4あまり17	2		0.5
				4. 9	3		0.0
				2	4		0.1
				上記以外の解答	9		11.0
				無解答	0		4.4
5	1	(5)		○ 8	1		82.8
				76	2		9.2
				上記以外の解答	9		5.5
				無解答	0		2.5
6	1	(6)		○ 20	1		87.1
				12	2		2.3
				17	3		0.7
				上記以外の解答	9		6.8
				無解答	0		3.1

[2] 出題のねらい

大問1では、第4学年で学習する計算問題をまとめて出題している。(5)、(6)については、「数量関係」領域の内容で、それ以外は「数と計算」領域の問題となっている。いずれの問題も、観点は表現・処理である。

(1)は、小数の加法の問題である。加数を整数部分のない純小数にして、小数点を意識して計算できるかどうかをとらえる問題として設定した。

(2)は、小数の減法の問題である。被減数を整数にすることで、小数と整数の違い、位取りが理解できているかどうかをみることをねらった。ここ数年、同様の問題を出しているが正答率が低いため、経年比較をするために今年度も同様の問題を設定した。

(3)は、 $(2 \text{ 桁}) \div (1 \text{ 桁})$ であまりのある除法の問題である。基本的な除法の計算方法及び商やあまりの意味が分かっているかをみるため、商が立て易い数値にした。

(4)は、 $(2 \text{ 桁}) \div (2 \text{ 桁})$ で、あまりのない除法である。除数が2桁の場合の除法が分かっているかをみるため、あまりがなく比較的商の見積もりがし易い数値を設定した。

(5)は、四則計算の順番について、加減乗除が混じっている場合は乗除から先に行うことが分かっているかを確認するための問題である。昨年度の「 $70 - 30 \times 2$ 」という問題では、「 $70 - 30$ 」を先に計算してしまう誤答が13.0%近くもあったため、本年度は数値を「 $68 - 30 \times 2$ 」として正答率にどのような変化が見られるのかを観察することにした。

(6)は、 $()$ を使った四則計算である。 $()$ の中を先に計算することが分かっているかどうかをみる問題とした。そのため、 $()$ の中は除法と加法が入っているが、除法が先にあるので順番に計算すれば正答が得られるようになっている。また、数値も扱い易い大きさにしている。

[3] 解説

(1) 「 $14.5 + 0.8$ 」の正答率は90.6%と昨年度同様に高く、小数点の位置をそろえて計算することの理解は、できていることが分かる。

(2) 「 $23 - 1.2$ 」の正答率は65.4%と(1)に比べて低い。ここ数年、正答率がいずれも65.0%台と横ばいであり、一番多い誤答が「1.1」のように整数も小数にみなして計算したものである。表示されていない小数点の位置を確認したり、一の位をそろえて計算したりできるように指導していく必要がある。

(3) 「 $92 \div 7$ 」の正答率は82.5%で、2位数 \div 1位数の除法の仕方はある程度身に付いている。昨年の「 $91 \div 7$ 」のように割り切れる場合の正答率が87.0%であったことからあまりの扱いでつまづく児童が増えることが分かる。

(4) 「 $85 \div 17$ 」の正答率は84.0%と(3)に比べて高い。2桁で割る計算であるが、仮商を立て易くあまりがないことで正答率が上がっている。昨年度の「 $85 \div 36$ 」の正答率72.5%よりも大幅に高いことや、(3)の結果から考えて、今後はあまりの意味や処理の仕方について学習を深めていくことが大切であろう。

(5) 「 $68 - 30 \times 2$ 」の正答率は82.8%で、昨年度の「 $70 - 30 \times 2$ 」の正答率80.8%を上回っている。最初に68をもってきたことで、左から順に計算した誤答の割合が9.2%と昨年度に比べ下がり、正答率が上がったと言えよう。早く計算できそうなところから計算するのではなく、四則計算のきまりに則って計算することができるように引き続き指導していくことが大切である。

(6) 「 $4 \times (12 \div 3 + 1)$ 」の正答率は87.1%で概ね満足できる結果と言える。 $()$ 内を先に計算することは意識している児童が多いことが分かる。

大問2

[1] 解答類型別の出現率

No	問題番号			正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中問	小問				
7		(1)		○ 3.7		1	91.7
				3.07		2	0.7
				37		3	0.4
				11.1		4	0.0
				上記以外の解答		9	6.4
				無解答		0	0.8
8		(2)		○ 1/8		1	75.7
				8		2	10.6
				0.1		3	1.4
				/8 (分母は正しく答えているが、分子に何も書かれていない。)		4	0.0
				上記以外の解答		9	10.3
				無解答		0	2.0
9	2	(3)		○ 1 2/3(5/3)		1	61.3
				5/7		2	0.9
				2/3		3	5.9
				1.2		4	3.4
				上記以外の解答		9	22.2
				無解答		0	6.3
10		(4)		○ 18/7		1	74.8
				24/7		2	1.0
				6/7		3	1.5
				14/7		4	1.3
				上記以外の解答		9	16.4
				無解答		0	4.9
11		(5)		○ 19/6, 3, 2 5/6 (完答)		1	61.5
				3, 2 5/6, 19/6		2	7.1
				3, 19/6, 2 5/6		3	11.5
				2, 5/6, 3, 19/6		4	1.5
				上記以外の解答		9	17.5
				無解答		0	0.9

[2] 出題のねらい

大問2は、「数と計算」領域の「小数と分数」に関する問題である。小数・分数は、第4学年で初めて学習する内容である。ここでの学習が基礎となって、第5・6学年の小数・分数の計算の学習が進められる。ここでは、小数・分数の基礎的基本的な理解ができているかをみることを目的として問題を設定した。そのため、(4)のみ主たる観点が表現・処理と

なっているが、他の4問は知識・理解が主たる観点の問題となっている。

(1) は、基本的な小数の意味や仕組みが分かっているかをみる問題である。

(2) は、分数が単位分数のいくつ分で表されていることが分かるかどうかをみるための問題である。

(3) は、数直線上に表された分数をよみとる問題である。昨年は、1と $5/7$ をよみとる問題にしたところ、正答率が低かった。そこで、今年度は1を3等分した数直線上の数値をよみとる問題とし、昨年と比較することにした。

(4) は、帯分数を仮分数で表す問題である。計算方法が分かっているかどうかをみるため、計算の間違いが少なくなるように整数部分を2にし、仮分数に直したときの分子が18と比較的扱い易い数値になるようにした。

(5) は、分数・整数を大きい順に並べる問題である。整数を分数に直したり、分数を小数に直したりして比べ、大小判断ができるかどうかを問うために設定した。昨年度は整数部分の大きさがすべて異なる問題で正答率が76.6%あった。今年度は、整数部分と同じになるものも含め、必ず帯分数か仮分数にそろえて比較する必要があるような問題を設定し、問題による傾向の違いを比較することにした。

[3] 解説

(1) 「1を3こと、0.1を7こあわせた数」は、正答率が91.7%と高い。小数における十進位取り記数法の仕組みについての理解はよくできていることが分かる。

(2) 「 $5/8$ は、□を5こ集めた数です。」で□に当てはまる数を問う問題の正答率は75.7%であり、「8」と分母の数を答える誤答が10.6%もあった。一方、昨年度の

「 $7/9$ は、 $1/9$ を何こ集めた数か。」を問う問題では95.9%と高い正答率であった。単位分数のいくつ分で分数が表されていることは分かっているが、ある分数の単位分数を思い浮かべたり、 $1/8$ を数として認識したりすることができない児童もいると思われる。引き続き、分数の意味理解ができるよう指導を工夫していきたい。

(3) 数直線上に示された分数(1と $2/3$)をよみとる問題の正答率は61.3%であった。分母を3にしたため、昨年度の1と $5/7$ の正答率52.2%よりは高くなっているが、数直線上に表された小数をよみとる問題に比べると正答率がかなり低い。誤答類型に当てはまらない誤答が多く、無解答も6.3%あった。分数を数としてとらえたり、大きさを実感するために数直線や図を用いたりすることができるよう、引き続き指導を工夫していく必要がある。

(4) 2と $4/7$ を仮分数で表す問題の正答率は74.8%である。帯分数と仮分数の関係については、引き続き指導していきたい。

(5) 「 $19/6$, 2と $5/6$, 3」を大きい順に並べるという問題では、正答率61.5%であった。昨年度「 $3/5$, 2, 1と $1/5$ 」の正答率76.6%と比べかなり低くなっている。昨年度は整数部分だけを比較すれば大小関係が分かったため正答率が高かったのであろう。今年度は $19/6$ と3の大小関係を逆にとらえている誤答が11.5%もあり、整数部分だけで大小を判断する傾向があるようだ。すべての分数を仮分数か帯分数にそろえてから比べると、数の大きさが分かり易いことに目が向けられるようにしていく必要がある。

大問 3

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
12	3	(1)		①	1		3.6
				②	2		3.4
				③	3		47.9
				○ ④	4		44.1
				上記以外の解答	9		0.3
				無解答	0		0.7
				13		(2)	
②	2		12.7				
○ ③	3		70.4				
④	4		7.4				
上記以外の解答	9		0.2				
無解答	0		1.0				

[2] 出題のねらい

大問3は、「数と計算」領域の「大きな数」の内容として、億の位までの範囲で出題した。十進位取り記数法の理解を中心として知識・理解を主たる観点としたため、数を書き表すのではなく、選択する形式にした。

(1)は、「10億を23こ集めた数はいくつ」という、億の位までの数の相対的な大きさをみる問題を設定した。

(2)は、空位を意識しながら「七兆百九億」という大きな数を表すことができるかをみる問題として設定した。

[3] 解説

(1)は、正答率が44.1%であった。選択肢③「23億」の誤答が47.9%あった。1億がいくつという見方だけでなく、「10億や100億をa個集めた数はいくつ」という数の相対的な大きさについての理解を深めていく必要がある。また、同時に、「10をa個集めた数」、「100をa個集めた数」など、低学年から数の相対的な大きさについて理解を深めていく必要がある。

(2)は、正答率が70.4%だった。空位がある大きな数について戸惑う子どもが多かったようだ。日本の命数法では「一・十・百・千」が繰り返して出てくる。正確に数を表すために、4桁ずつ区切って考えればよいことなどに、目を向けられるようにしていくことが大切である。

大問4

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
14	4	(1)		○	87000 または 約87000 または 8万7000	1	71.3
					90000	2	13.4
					86000	3	1.8
					86900	4	1.8
					上記以外の解答	9	8.0
					無解答	0	3.7
15		(2)		①		1	19.4
				○	②	2	69.4
					③	3	5.4
					④	4	2.3
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答	0	3.4

[2] 出題のねらい

大問4は、「数と計算」領域の「がい数」の内容から出題した。

(1)は四捨五入して、上から2桁の概数で表す問題である。四捨五入の仕方が分かり、適切に処理できるかどうかをみる問題として設定した。

(2)は、(1)とは逆で「四捨五入して千までの概数にしたときに16000になる数の範囲にある数」を問う問題である。数直線をよむために、概数の意味に基づいて考えることができるかどうかをみるために設定した。

[3] 解説

(1)「86903を上から2桁の概数で表す。」の正答率は71.3%だった。昨年の「6480157を上から2桁の概数で表す。」の正答率68.1%と比べ、桁数が少ないため正答率は上がっている。上から2桁の概数にするため、上から2桁目の数「6」を四捨五入し「9万」とする誤答が13.4%見られた。どの位を四捨五入するのか、引き続き指導していくことが大切である。

(2)は、「四捨五入して16000になる数」の範囲を、数直線からよみとる問題で、正答率は69.4%であった。選択肢①と答えた誤答が19.4%あり、概数の範囲を数直線を用いて視覚的にとらえられるよう指導したい。

概数と四捨五入の内容は、第4学年で初めて学習する。概数の意味を理解し、目的に応じて概数を用いることができるように指導していくことが大切である。

大問5

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
16	5			○	(左から) +, ×	1	78.2
					(左から) ×, +	2	3.5
					(左から) ×, -	3	0.3
					(左から) ×, ×	4	0.6
					(左から) ÷, +	5	2.0
					(左から) ÷, -	6	0.9
					(左から) ÷, ×	7	2.5
					(左から) -, ×	8	1.7
					上記以外の解答	9	8.0
					無解答	0	2.4

[2] 出題のねらい

「数量関係」領域で、四則混合した式の意味を理解し正しく立式できるかどうかをとらえるための問題として設定した。主たる観点は、数学的な考え方の「式についての考え」である。昨年の減法と乗法が混在する問題と比較するため、加法と乗法が混在する問題にした。

[3] 解説

「はじめに、シールを 36 まい持っていました。そのあと、4 まいずつ 5 人からシールをもらいました。持っているシールは全部で何まいになりましたか。」を 1 つの式に表すとどうなるかを考え、 $36 \square 4 \square 5$ に当てはまる記号をかく問題である。正答率は 78.2% であった。

昨年の「50 本のボールペンを 4 本ずつ 9 人に配ると何本のこるか。」を 1 つの式に表す問題での正答率 37.8% と比較すると正答率が大幅に上がっている。問題場面が求残から増加に変わり、問題場面がとらえ易くなったことが大きな要因であろう。引き続き「問題をよんで場面をとらえること」、「場면을式に表すこと」ができるよう、場면을図に表したり、一度立てた式をもう一度よんだりする学習を積み重ねていくことが大切であろう。

大問 6

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出 現 率 (%)
No	大 問	中 問	小 問				
17	6			○ ①	1		70.5
				②	2		4.6
				③	3		11.4
				④	4		11.0
				上記以外の解答	9		0.3
				無解答	0		2.2

[2] 出題のねらい

大問6では、「数量関係」領域の「式と計算」の内容を取り上げた。第4学年では、数量の関係を四則の混合した式や（ ）を用いた式で表したり、よみとったりする力を伸ばすとともに、計算の順序やきまりを理解し、適切に用いられることを学習した。ここでは、与えられた式をよみ、問題場面と照らし合わせるができるかをみる問題として設定した。

[3] 解説

正答率は70.5%と、昨年度の同様の問題より15.0%近く上がっている。昨年に比べ、数や文章を分かり易くしたため、正答率が上がっていると考えられる。選択肢③と④の誤答がともに10.0%以上であった。

具体的な場面を図や絵に表したり、立式した根拠を場面や図を基に説明したりすることが大切である。また、日頃から練り上げの活動で、ある児童がかいた式や図の意味をみんなで考えるなど、文章と図や式を関連付けてよみとる機会を設ける必要がある。

大問 7

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
18	7			○	①	1	34.7
					②	2	9.0
					③	3	4.3
				○	④	4	49.3
					上記以外の解答	9	0.4
					無解答	0	2.3

[2] 出題のねらい

大問7では、「数と計算」領域で、比較量と割合から基準量を求める除法の場面を取り上げた。数量の関係を把握し、場面を図に表したものをよみとる力をみる問題である。

[3] 解説

正答率は49.3%である。選択肢①の誤答率は34.7%と高い。これは、チューリップの本数48本だけに着目してしまい、パンジーとの関係（どちらが基準量なのか）をしっかりとらえていないためだと思われる。過去の同様の設問でも45.0%から60.0%と正答率が低い。

新学習指導要領でも、具体物、言葉、数、式、図、数直線を用いて表したり考えたり説明したりする活動を通して指導することが掲げられている。低学年から、具体物や半具体物を一列に並べたり、図に表したりするなどの活動を増やしていくことが大切である。第2学年のかけ算の学習や、第3学年のわり算の学習でも、数直線を意識したテープ図が教科書などで明示されている。具体的なものから徐々に段階を踏んで、より抽象化されたテープ図や数直線をよみとったり、かいたりする力を育てていきたい。課題場面から立式して計算処理をするだけでなく、テープ図や数直線などで数量関係をまとめるような授業展開が必要である。

大問 8

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
19		(1)		○	①	1	9.1
				○	②	2	80.8
					③	3	1.3
					④	4	2.3
					上記以外の解答	9	5.1
					無解答	0	1.5
20	8	(2)		○	(式) 9×6 または $9 \times 6 = 54$ (答え) $54(\text{cm}^2)$	1	59.8
				○	(式) 6×9 または $6 \times 9 = 54$ (答え) $54(\text{cm}^2)$	2	17.0
				○	式が「=」でとまっている場合も許容とする。 (式) $9 \times 6 =$ または $6 \times 9 =$ (答え) $54(\text{cm}^2)$	3	0.5
				○	式に単位「cm」、「 cm^2 」がついていても許容とする。	4	1.1
					(式) $9 + 6 + 9 + 6$ たしている順番は問わない。 (答え) $30(\text{cm}^2)$	5	2.4
					(式) $9 \times 6 \times 9 \times 6$ かけている順番は問わない。 (答え) $2916(\text{cm}^2)$	6	0.6
					上記以外の解答	9	15.1
					無解答	0	3.4

[2] 出題のねらい

(1)は、下じきの面積に合う単位を選ぶ問題である。量感が身に付いているかをみることをねらいとしているので、知識・理解の観点とした。

(2)は、長方形の面積の求積である。面積の求め方が分かっているかをみる問題としているので、主たる観点は知識・理解である。

[3] 解説

(1)は、問う面積が、東京ドーム（平成 18 年度、正答率 44.0%）と異なり、教室（平成 19 年度、正答率 69.9%）、下じき（平成 20 年度、正答率 80.8%）と、身近であり手で触れて感じ取れるものほど、量感を発揮し易いことを改めて確認する結果となった。長さ、かさ、重さなど、それぞれの量の学習においても、基本となる単位の大きさを実際につくったりいくつも探したりする活動、見当をつけてから測る活動をできるだけ多く積み実感できるようにすることが大切である。

(2)の面積を求める問題の正答率は例年 90.0%を超えているが、今年度は 78.4%と下がっている。これは長方形の 4 辺すべての長さを示したためであると考えられる。「求める対象は何なのか」、「そのために必要な情報は何か」と必要なものを自分で判断し取捨選択する力を育む学習経験が十分に積まれていないのではないだろうか。面積の公式を知っているだけでは課題解決の力は備わらない。面積の意味（ 1cm^2 の正方形が何個分か）についての理解を深め、それを活用する力まで培っていくことが大切である。場面を丁寧に整理した課題のみを提示するのではなく、条件過不足の課題を提示することを通して、数学的な態度や判断力を養っていくことが大切である。

大問 9

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
21	9			①	1		9.9
				②	2		4.4
				○ ③	3		74.0
				④	4		9.3
				上記以外の解答	9		0.2
				無解答	0		2.3

[2] 出題のねらい

大問9は、「量と測定」領域で、「複合図形」について出題した。提示された式から、複合図形の面積の求め方をよみとる問題である。数や式が何を表すかをよみとることをねらいとしている。

[3] 解説

過去2年間に比べて正答率が上がり、74.0%であった。数値が若干、簡単になったことが影響していると思われる。

選択肢①の誤答は、式が3つあることから図を三分割したものを選べばよいと判断したのではないだろうか。12+6の意味がよみとれていないと考えられる。選択肢④の誤答は「4×3」の4の意味はよみとれているが、他の数や式の表す意味はよみとれていないと考えられる。

与えられた図を式に表して処理する学習にとどまることなく、図と数や式を相互に結び付ける学習をきちんと時間をとって扱うことが大切である。図を使って式の意味を説明する活動や、式を基に図で表す活動を子どもに保証していく必要がある。

大問 10

[1] 解答類型別の出現率

No	問題番号			正答	解答類型	類型番号	出現率(%)	
	大問	中間	小問					
22	10	(1)		○	140 (度)	1	82.2	
					40 (度)	2	12.0	
					上記以外の解答	9	4.6	
					無解答	0	1.2	
23		(2)			○	70 (度)	1	76.4
						110 (度)	2	2.1
						90 (度)	3	1.1
						上記以外の解答	9	16.1
						無解答	0	4.3
24		(3)			○	40 (度)	1	62.2
						45 (度)	2	3.5
						30 (度)	3	6.7
					上記以外の解答	9	18.8	
					無解答	0	8.9	

[2] 出題のねらい

大問 10 は、「量と測定」領域で、「角」について出題した。

(1) は、分度器を用いて角度を測定する問題で、表現・処理をみる問題である。

(2) は、直線が 180 度であることを基に考えて解決する問題で、主たる観点は知識・理解である。

(3) は、二等辺三角形 9 枚で円のように敷き詰めたとき、その二等辺三角形の 1 つの角の大きさを求める問題である。これは与えられた図から、角が 1 周で 360 度であることを基に解決するという、主に数学的な考え方をみる問題として設定した。

[3] 解説

(1) は、分度器の 140 度をよみとる問題で、正答率は 82.2% であった。この結果から、分度器を使って角度を測定する基本的な技能は身に付いていると言える。引き続き、測定の経験をできるだけ多く積ませていくことが必要であると考ええる。

(2) は 2 本の直線が交わってできる角の大きさを求める問題で、正答率は 76.4% であった。昨年度は正答率が 58.6% と低かったが、今年度は一方の直線を水平におき、鋭角を求める問題としたため正答率が上がった。2 直角 (180 度) で直線になるということは、概ね理解できていることが分かる。直線の傾きなどに左右されず、必要な情報をよみとる力を育てていきたい。

(3) は、二等辺三角形 9 枚で円のように敷き詰められるとき、その二等辺三角形の 1 つの角の大きさを求める問題で、正答率は 62.2% であった。毎年同じような結果であり、角が 1 周で 360 度であることが活用できていないと言えよう。角については、大きさを求めるだけでなく、図などを基に考察していく活動を取り入れていく必要がある。

大問 11

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
25	11	(1)		○	い, え (順不同, 完答)	1	62.8
					あ, い	2	1.5
					あ, え	3	0.7
					い, お	4	17.2
					う, え	5	2.4
					え, お	6	4.4
					上記以外の解答	9	9.8
					無解答	0	1.4
26	11	(2)		○	9 (まい)	1	59.3
					8 (まい)	2	4.1
					4 (まい)	3	1.3
					6 (まい)	4	5.8
					上記以外の解答	9	25.4
					無解答	0	4.1
27	11	(3)		○	①	1	39.0
					②	2	12.0
					③	3	3.8
					④	4	32.7
					上記以外の解答	9	8.8
					無解答	0	3.7
28	11	(4)		○	略 (3辺の長さが、5cm、5cm、8cmの二等辺三角形がかければ正答。)	1	75.1
				○	作図に使った線が消えていて、正しく作図できたかどうかは判断できないが、二等辺三角形は正しくかけている。	2	4.9
					上記以外の解答	9	16.0
					無解答	0	4.0

[2] 出題のねらい

大問 11 は、「図形」領域の「二等辺三角形と正三角形」について出題した。

(1) は、二等辺三角形の約束を基に選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題である。

(2) は、正三角形を敷き詰めていく問題を出題した。補助線を引いたり、念頭で操作したりして、敷き詰めることができるかどうかをみる問題である。主たる観点は数学的な考え方である。

(3) は、定義や性質に基づいて正三角形を選び出すことができるかをみるために設定した問題で、主たる観点は数学的な考え方である。

(4) は、二等辺三角形の作図でコンパスを正しく使うことができているかどうかをみる表現・処理の問題である。

[3] 解説

(1) は、いろいろな三角形の中から二等辺三角形を選ぶ問題で、正答率は 62.8%であった。マス目を利用して2辺の長さが等しいかどうかを判断する力が不十分であることが伺える。見た目や直観で長さを判断するのではなく、本当に同じ長さかどうかを確かめる姿勢や態度を育てていくことが大切である。また、図形の学習においては、常に辺、頂点、角などの構成要素に着目して考察するように指導していきたい。

(2) は正三角形の敷き詰めの問題である。正答率は 59.3%あり、予想した誤答例以外のものが 25.4%あった。(1) 同様、根拠をもたず、直観で答えている児童が多くいることが伺える。日頃からフリーハンドで実際に図をかき入れるなど、図形化して考えていく活動が望まれる。

(3) は、長方形の紙を二つに折り、それをはさみで切って開いた図形の中から正三角形を選び出す問題である。正答率は 39.0% (一昨年 41.4%) であった。正三角形の定義や性質が理解されていないことや念頭操作をする力が弱いことが分かる。図形を折ったり重ねたりなどの活動は、低学年から繰り返し行っていくことが大切である。操作活動を多く取り入れ、操作しながら図形の定義や性質を確認できるようにしたり、できる図形を予想してから操作するように促したりする指導も必要である。

(4) は、二等辺三角形を作図する問題で、正答率は 80.0%であった。コンパスを正しく使って基本的な図形を作図する技能は概ね身に付いている。

大問 12

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
29	12	(1)			①	1	1.4
				○	②	2	70.1
					③	3	24.9
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答	0	3.5
30		(2)		○	4 (こ)	1	84.8
					2 (こ)	2	0.8
					8 (こ)	3	0.9
					上記以外の解答	9	9.4
					無解答	0	4.1

[2] 出題のねらい

大問 12 は、「図形」領域の「円及び球」について取り上げて出題した。

(1) は、円の「半径」について理解しているかをみる問題で、主たる観点は知識・理解である。

(2) は、箱の中に球が何個入るかを問うことで、球の直径を基に解決できるかをみる問題となっている。

[3] 解説

(1) は、円の半径についての理解を問う問題で、正答率は 70.1% であった。直径を選んでいる誤答が 24.9% もあることから、直径や半径という言葉について、活用する中で理解を深めていくことが大切である。

(2) は、球の性質に関する問題で、正答率は 84.8% であった。球についての理解を深めていくためには、直方体などではさんで直径を測定したり、球の中心を通る平面で切った切り口を観察したりするなどの活動を通し、実感を伴った指導が重要である。

大問 13

[1] 解答類型別の出現率

No	問題番号			正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問				
31	13	(1)		○	2 (月)	1	89.9
					上記以外の解答	9	6.9
					無解答	0	3.3
32		(2)		①	1	12.6	
				②	2	9.4	
				③	3	2.8	
	○		④	4	71.2		
			上記以外の解答	9	0.4		
	無解答	0	3.5				

[2] 出題のねらい

大問 13 は、「数量関係」領域から「折れ線グラフ」を取り上げた。一年間の気温の変わり方を表した折れ線グラフから、グラフのよみ方や変化の仕方のよみとりに関する問題を出題した。

- (1) は、気温が8度の月を折れ線グラフからよみとれるかをみる問題である。
 (2) は、気温の変化をグラフの傾きと結び付けてとらえられるかをみる問題である。

[3] 解説

(1) は、正答率が 89.9%であり、折れ線グラフに表された数量のよみとりは、十分理解できているといえる。

(2) は、正答率が 71.2%である。同様の問題が 62.8% (平成 17 年度)、76.8% (平成 18 年度)、80.5% (平成 19 年度) と 3 年続けて上がっていたが、今回は、上がり方、下がり方と限定しなかったために正答率が下がったと思われる。「変わり方が一番大きい」ことを「上がり方が一番大きい」と思いこみ、「下がり方が一番大きい」ところをよみとらなかった誤答が 12.6%あった。また、「一番大きい」を「最高気温」と混同してグラフの最高値あたりを選んだ誤答が 9.4%あった。今後も、折れ線グラフの数値のよみとりだけでなく、変化の仕方とグラフの傾き（右上がりの傾き・右下がりの傾き）との関連や正しい用語の意味を理解できるように、具体的な場面を通して指導していくことが大切である。

大問 14

[1] 解答類型別の出現率

No	問題番号			正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問				
33		(1)		○	ア10, イ35 (完答)	1	86.3
					ア10, イ70	2	4.3
					上記以外の解答	9	5.4
					無解答	0	4.0
34	14	(2)		○	8 (人)	1	80.9
					4 (人)	2	0.8
					13 (人)	3	2.5
					12 (人)	4	2.9
					上記以外の解答	9	8.2
					無解答	0	4.6

[2] 出題のねらい

大問 14 は、「数量関係」領域から「二次元表」を取り上げた。第4学年では、資料を2つの観点から分類整理し、折れ線グラフや二次元表に表す学習を行う。ここでは、二次元表のよみ方やかき方に関する問題を出題した。

(1) は、二次元表の空いている場所の数値を記入する問題である。二次元表の各欄に表された数値の意味を理解し、合計などを求める問題である。

(2) は、条件に当てはまる数値を二次元表からよみとる問題である。

[3] 解説

(1) の正答率は 86.3%であり、一昨年度と同等の正答率になっている。また、(2) の正答率は 80.9%で、一昨年度とほぼ同等の正答率になっていることから、二次元表のよみ方やかき方は、概ね理解されているといえる。「合計」の欄の意味を正しく理解していない誤答も見受けられた。今後も各欄の数値の意味などについて理解できるように、分類方法を丁寧に指導していくことが大切である。

二次元表については、他教科などでも目にする機会が多い。指導にあたっては、単に表の見方やかき方を定着させるだけでなく、物事を分類整理するよさを味わわせたり、論理的に考える力を伸ばしたりすることが大切である。

大問 15

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
35	15			○	5 (こ)	1	58.9
					3 (こ)	2	4.4
					4 (こ)	3	4.1
					上記以外の解答	9	26.1
					無解答	0	6.5

[2] 出題のねらい

大問 15 は、「数量関係」領域の「変わり方」を取り上げた。正方形が1つ増えると、まわりの長さがどれだけ増えるかに着目し、伴って変わる2つの数量の関係をとらえることができるかを見る問題である。問題を把握し易くするために、途中までの変化の様子を表で表し、その先に入る値を求める形式とした。主たる観点は、数学的な考え方である。

[3] 解説

正答率は 58.9% で、伴って変わる2つの数量の関係をとらえている児童もいるが、昨年度を 10.0% 近く下回る結果となった。昨年度と比べて、正方形が3個のときまでしか表を載せなかったことを考慮しても、「表を縦や横に見てきまりを見つければよい」や「表の続きを考えればよい」などの方法の見通しをもてなかった児童が多くいることが分かる。

変わり方のきまりを見つけるには、表を縦や横に見て、正方形が1つ増えるごとにまわりの長さがいくつ増えるのか、その規則性を発見していこうとする態度が大切になってくる。表の扱い方についても、「表をかかせる」指導ではなく、「表を使ってきまりを見つけることや表のよさを体感する」指導が大切である。

また、日頃から、数感覚を磨いたり、きまりに気付いたり、きまりを見つけようとしたりする姿勢を育んでいきたい。

(5) 今後の指導にあたって

○数と計算【大問1(1)～(4)・2・3・4・7】

「数と計算」は、整数、小数、分数などの数の意味と表し方、数の計算などによって構成されている領域で、平均正答率は、70.9%であった。内容を見ると、昨年度と同様に整数の四則計算と小数に関する問題は、概ね満足できる結果であった。これまで正答率が低かった概数は、日頃の指導の成果が表れ、正答率が70.0%を上回った。一方、例年高い正答率を得ていた大きな数の十進位取り記数法については、出題の仕方を変えたためか、正答率が下がった。また、倍とわり算の問題を図に表したり、数直線上に示された分数をよみとったりする問題は、今回も正答率が低かった。数について図や数直線と結び付けてとらえることに課題があることが分かる。

「数と計算」の内容は、他の領域、特に「量と測定」、「数量関係」などの内容と深くかかわりがあるので、重点を置いて指導していく。指導にあたっては、数の形式的な処理だけにならないように、意味もきちんと押さえていくことが大切である。概数や分数、倍とわり算などの指導では、数の意味理解を深めるために、図や数直線などを用いて視覚的にとらえられるようにしたり、図や数直線と関連させたりしていく。また、十進位取り記数法などの仕組みの理解をより確かなものにするために、位取り表を基にして数をかく(考える)活動を多く取り入れていく。

キーワード：意味理解、十進位取り記数法、数直線

○量と測定【大問8・9・10】

身の回りにあるいろいろな量の意味、単位を用いての量の表し方、量の測定などによって構成されている領域である。平均正答率は、75.0%を上回り、概ね満足できる結果であった。分度器を用いた基本的な測定の仕方については高い正答率を得た。また、適切な面積の単位についての理解も進んできている。しかし、角の性質などの基本的な理解やそれらを活用していくことに課題が見られた。

今後も、量を“もとにするもののいくつ分”ととらえる考え(単位の考え)を大切に、基本的な学習内容の定着を図っていく。角については、2直角(180度)で直線になることや4直角(360度)で1回転することなど、操作を通して気付くようにするだけでなく、図形の中から必要な部分を見つけ出したり、それを基に考察したりする活動が大切である。また、複合図形の求積については、与えられた図を式にして面積を求めるだけでなく、図を用いて式の意味を説明したり、式を基にして図で表したりするなど、図と式を相互に結び付ける活動を積極的に取り入れる活動が大切である。

キーワード：単位の考え、回転角、図と式の相互関係

○図形【大問11・12】

基本的な図形の意味、構成などに関する領域である。正答率は、66.0%で、昨年度と同様、領域別では最も低かった。作図や球に関する問題の正答率は概ね満足できる結果であったが、正三角形の定義や性質を基にして敷き詰めをしたり、照らし合わせて解決したりする問題の正答率は低かった。図形の定義は理解しているが、辺の長さなどを“直観で判断”していたり、補助線をかかずに見当をつけて解答したりしている児童が多くいることが伺える。

今後も、図形を定義する際には、図形を形成する過程（比較、抽象、概括）を大切に指導していくことが大切である。そして、図形を弁別する活動では、構成要素に着目し、辺の長さや角の大きさなどを調べながら進めていく。また、日頃から敷き詰めに関する活動を取り入れたり、いろいろな図形の合成・分解などを行ったりして、図形に親しみ、豊かな感覚を育てるようにする。さまざまな経験を通して、根拠を明らかにし、筋道立てて思考する態度を育てていく。

キーワード：概念形成、図形の構成要素

○数量関係【大問1(5)(6)・5・6・13・14・15】

数量や図形を取り扱う際の共通の考え方や方法などによって構成される領域である。平均正答率は、78.4%であり、概ね良好な結果となった。文章中の数量関係を式で表したり、逆に、式の意味をよみとったりする問題の正答率は、昨年度まで低かったが今年度は70.0%を超えた。文章と式を常に関連付けて指導するなどの成果が少しずつ表れてきていることが分かる。一方、伴って変わる二つの数量関係をとらえる問題は、昨年度と同様の問題より10.0%近く下がった。これは、問題の表が短くなり、自ら表の続きをかかなくてはならなくなった結果、直観で解答したためと思われる。

折れ線グラフについては、かいたりよんだりすることに加え、変化の割合についてよみとることが大切である。二次元表については、表のよみとりとともに二次元表に整理するよさも味わわせたい。また、数量関係を式に表すことは、とても抽象的な活動なので、いろいろな場面や問題を式で表したり、式から場面や一般的な関係をよみとったりすることを日頃から行っていく必要がある。

キーワード：きまり、式をよむ、整理するよさ

◎全体を通して

観点別に平均正答率を見ると、「数学的な考え方」64.5%、「数量や図形についての表現・処理」77.5%、「数量や図形についての知識・理解」70.8%であった。「数学的な考え方」の正答率は他に比べて低かったが、少しずつ高くなってきている。

「数学的な考え方」は、児童が新たな問題場面に直面し、既に獲得した知識や技能と関連させて考えたり、よりよい解決方法を吟味・検討したりする過程を大切にする中で育まれる。そして、児童が「知識・理解」、「表現・処理」の力を活用し、主体的に粘り強く考えていくとき、「数学的な考え方」は大きな力を発揮するものと思われる。

これからも各観点を相互に関係付けながらバランスよく育んでいくことが大切である。

<数学的な考え方を育む授業づくりのポイント>

- 1 自分の考えを言葉、図、表、グラフ、式などで表現する
- 2 友だちの考え（式、図など）をよむ
- 3 友だちの考えを整理、比較、統合する
- 4 友だちといっしょに創り上げる
- 5 教師の教材研究（意味付け、価値付け）

3. 生活や学習についてのアンケート

調査の概要

1 調査の目的

川崎市の公立小学校に在籍する児童の生活や学習についての意識や実態を把握することにより、各学校における教育課程や指導方法等の改善に資するとともに、本市学校教育全体の充実に向けた基礎資料として活用する。

2 調査の設計

(1) 調査実施校及び対象者

市内公立小学校第5学年に在籍する全児童 *調査当日の欠席者を除く

(2) 調査校数及び回答者数

学校数：115校 回答者数：10,999名

(3) 調査実施期日

平成20年5月14日（水）に川崎市学習状況調査の一環として、各教科の調査後に実施

(4) 調査方法

記名の質問紙法調査による

(5) 調査内容及び設問数

児童の生活と学習に関する意識と実態についての調査 44問

(6) 設問の主な観点及び視点

	観 点	視 点
1	学校生活に対する意識	楽しさ
2	学習全般に対する意識	好感度、必要性、理由、相談相手
3	各教科等に対する意識	好感度、理解度、有用感
4	家庭学習の実態	学習時間、学習内容、通塾
5	家庭生活の実態	睡眠時間、朝食の摂取、学習の準備、 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間 1ヶ月の読書量
6	各教科等に対する意識・実態	学習内容・方法に対する好感度 日常生活への活用や関連 等

3 調査結果の集計・分析にあたっての留意事項

(1) 単純集計及び分析

- ①2の(6)にある「設問の観点」ごとに項立てを行い、分析を行った。
- ②設問ごとに集計結果をグラフで表し、考察を加えた。
- ③一部の設問では前年度の結果を併記して、経年比較分析を行った。

(2) クロス集計及び分析

いくつかの設問については、クロス集計という手法を用いて分析した。これは、設問Aでの選択肢ごとに設問Bの回答を集計することで、設問Aでの回答選択の違いを設問Bで説明する方法である。このことにより、設問Aと設問Bの二つの設問の間の関連や相関関係などを分析した。なお、クロス集計では、集計の都合上無回答者を除いて集計した。

(3) 各グラフには、見易さを考慮して調査結果の割合の数値を記入しきれていないものがある。

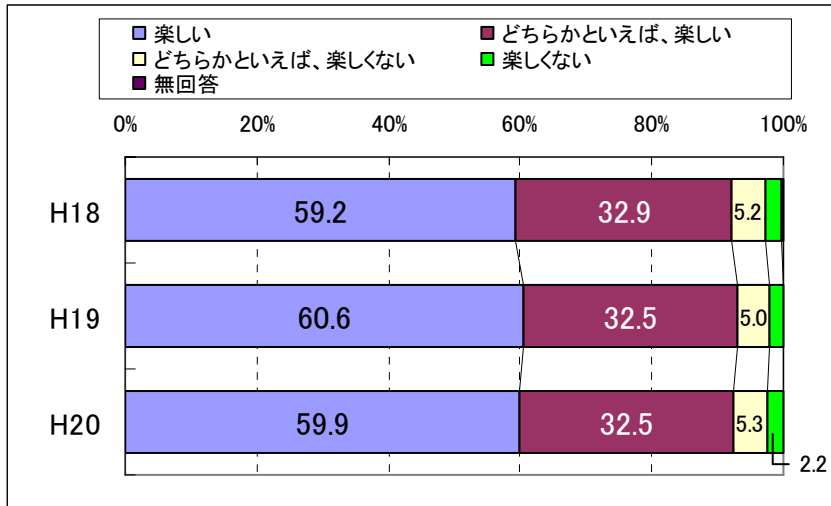
単純集計については、「資料 調査結果集計表」の該当設問の数値でご確認願いたい。

調査結果と分析

単純集計

1 学校生活に対する意識

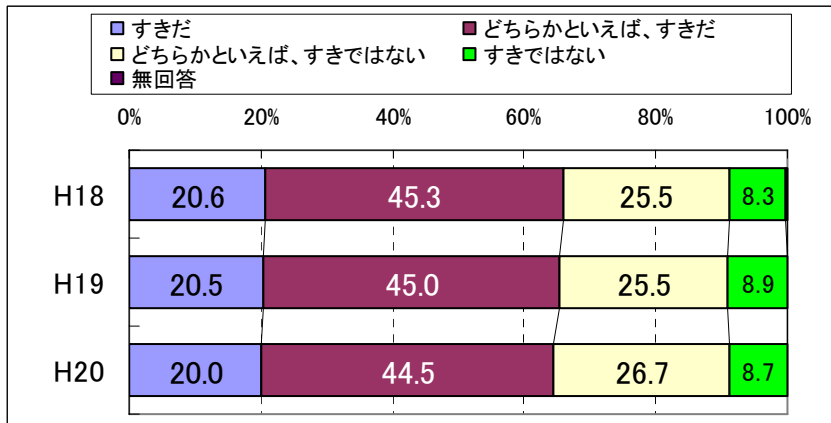
学校生活の楽しさ【問1】



○59.9%の児童が、学校生活は「楽しい」と回答しており、「どちらかといえば、楽しい」を合わせると92.4%となり、9割を超える。
○19年度に比べ、「楽しい」と「どちらかといえば、楽しい」を合わせた回答が0.7ポイント減少している。

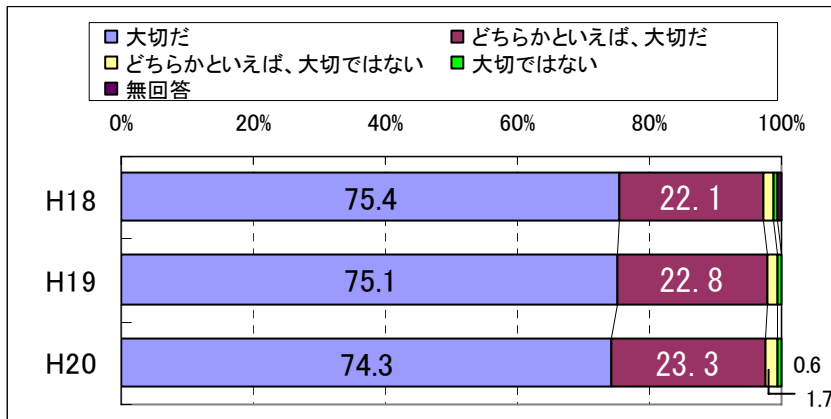
2 学習全般に対する意識

(1) 好感度【問2】



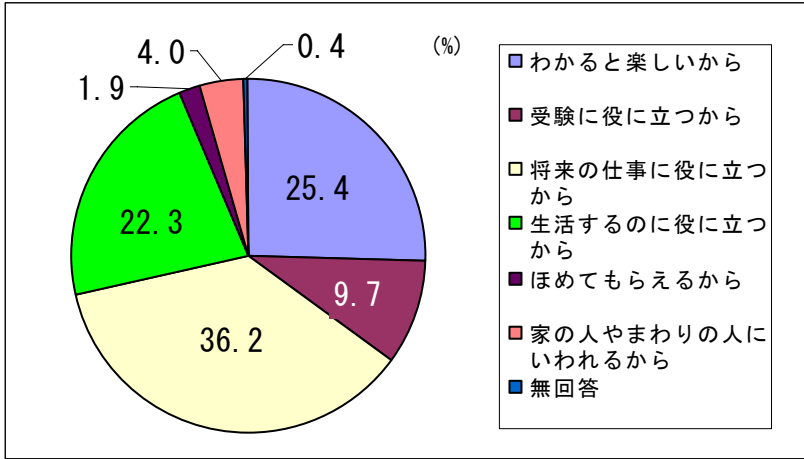
○20.0%の児童が、勉強は「すきだ」と回答しており、「どちらかといえば、すきだ」を合わせると64.5%である。
○19年度に比べ、「すきだ」と「どちらかといえば、すきだ」を合わせた回答が1.0ポイント減少している。

(2) 必要性【問3】



○74.3%の児童が、勉強は「大切だ」と回答しており、「どちらかといえば、大切だ」を合わせると97.6%である。
○19年度に比べ、勉強は「大切だ」と「どちらかといえば、大切だ」を合わせた回答が0.3ポイント減少している。

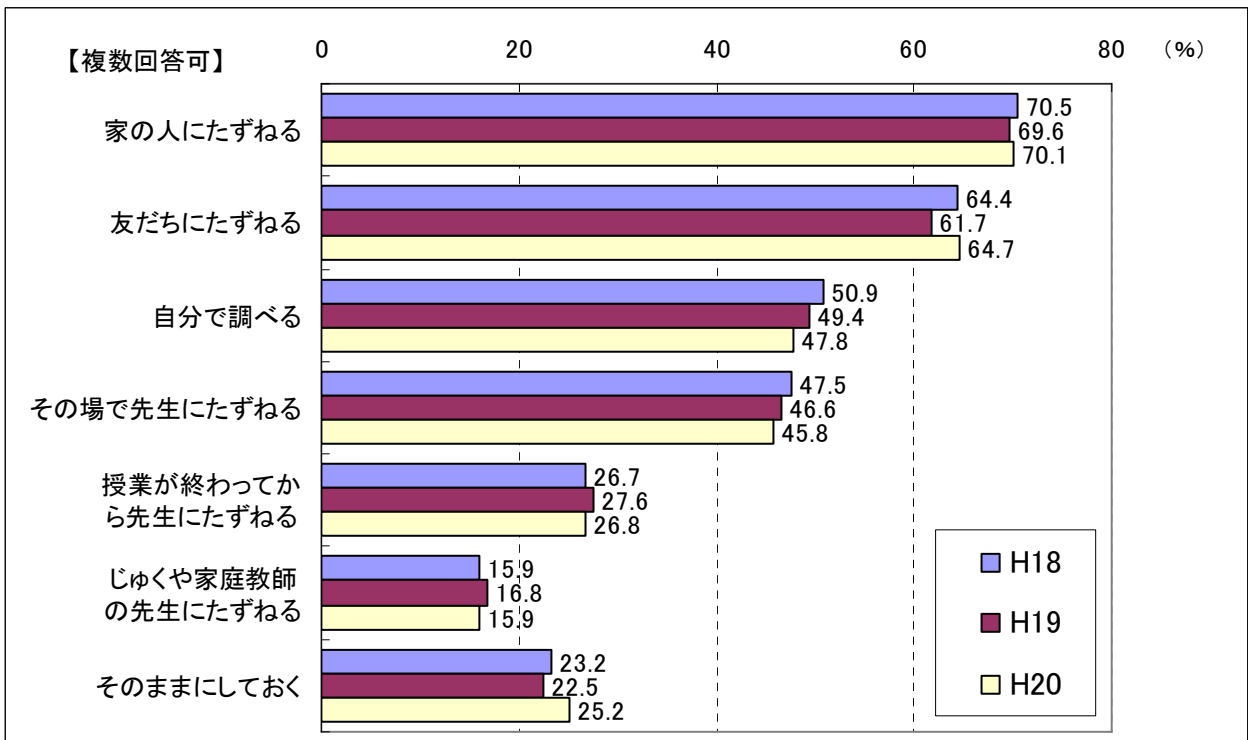
(3) 理由【問4】



○勉強する一番の理由として、「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」を合わせると 58.5%で、ほぼ6割である。

○「わかると楽しいから」(25.4%)という回答も比較的多い。

(4) 相談相手【問19】



○「授業の中でわからないことがあったときに相談する相手」として、「家の人」を挙げている児童が70.1%と最も多く、「友だち」の64.7%が続いている。

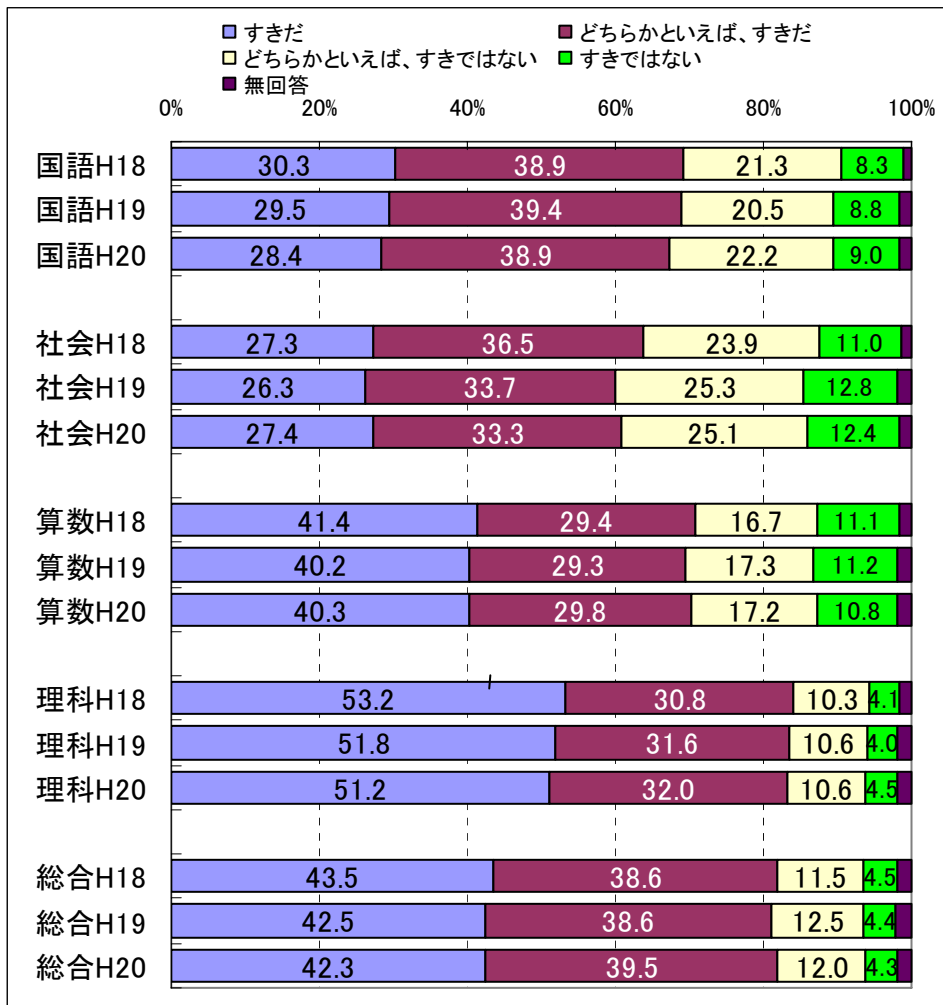
○18年度から「自分で調べる」という回答は約1.5ポイントずつ、「その場で先生にたずねる」という回答は約1.0ポイントずつ、減少している。

○19年度に比べ、「友だちにたずねる」という回答が3.0ポイント増加している。

○19年度に比べ、「そのままにしておく」という回答が2.7ポイント増加している。

3 各教科等に対する意識

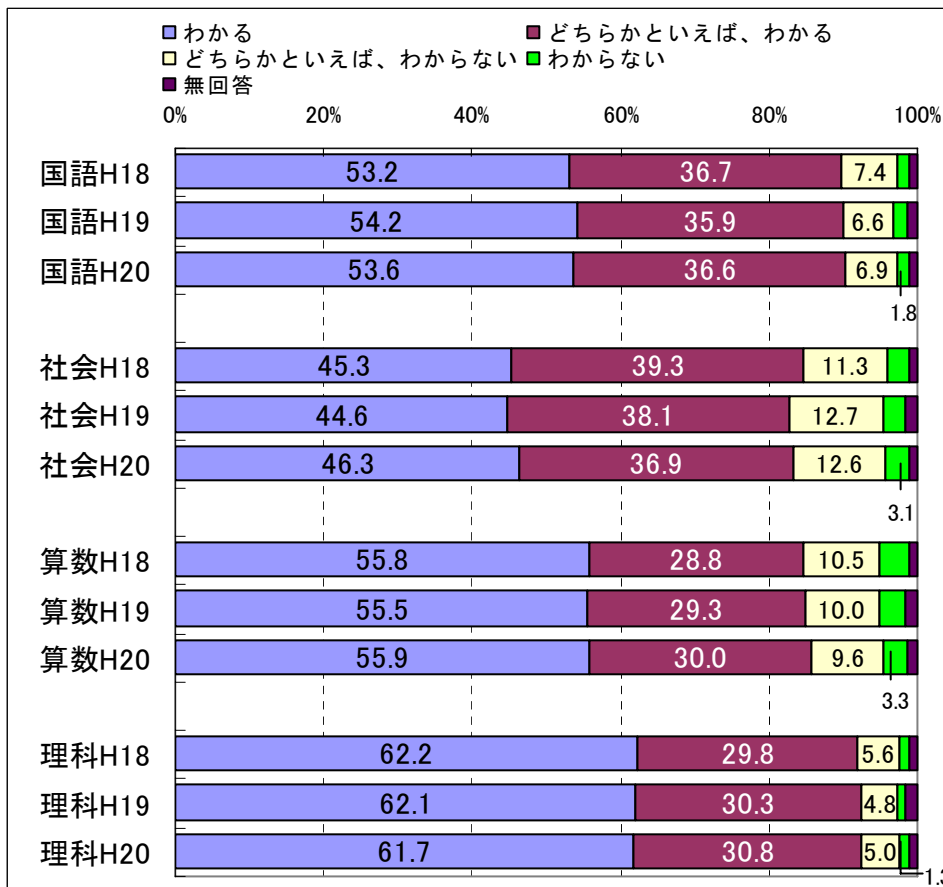
(1) 好感度【問5～9】



○好感度(「好きだ」と「どちらかといえば、好きだ」を合わせた割合)が最も高いのは、「理科」で83.2%、次に、「総合的な学習の時間」(81.8%)、「算数」(70.1%)、「国語」(67.3%)、「社会」(60.7%)と続いている。

○過去3年間の各教科の平均は、「国語」が68.5%、「社会」が61.5%、「算数」が70.1%、「理科」が83.5%、「総合」が81.7%である。

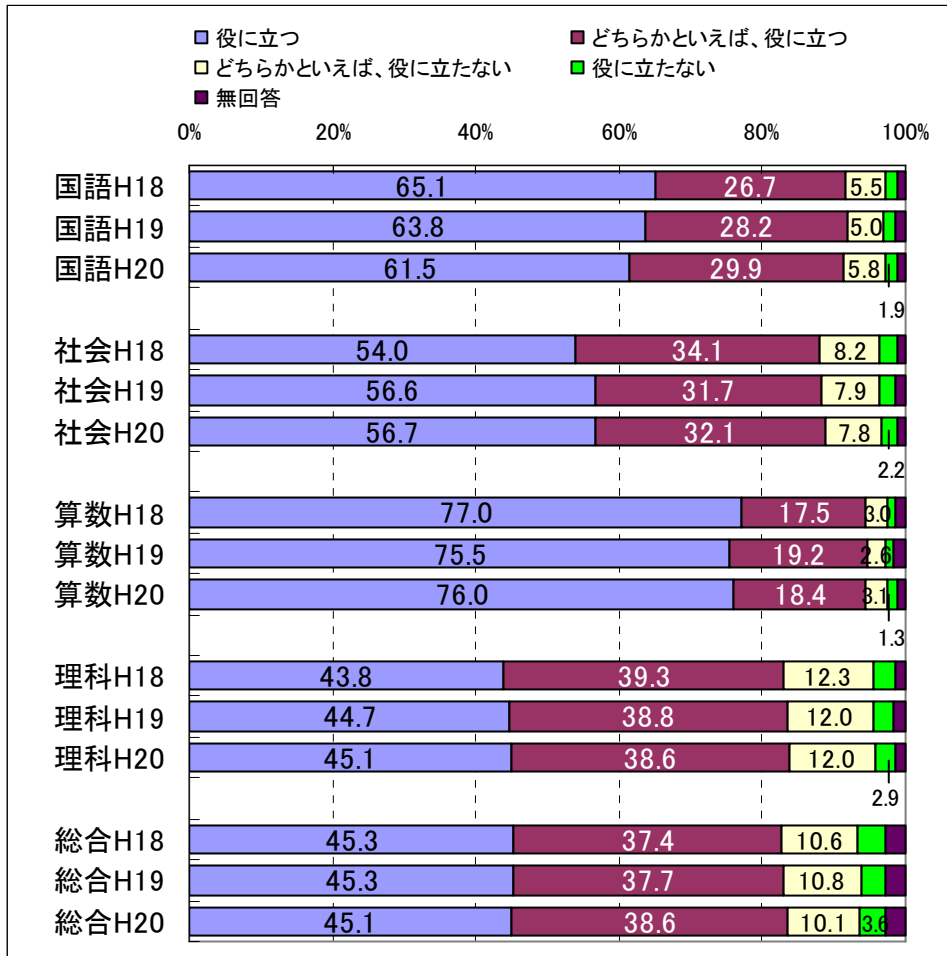
(2) 理解度【問10~13】



○理解度(「わかる」と「どちらかといえば、わかる」を合わせた割合)が最も高いのは、「理科」で92.5%、次に、「国語」(90.2%)、「算数」(85.9%)、「社会」(83.2%)と続いている。

○過去3年間の各教科平均は、「国語」が90.1%、「社会」が83.5%、「算数」が85.1%、「理科」が92.3%である。

(3) 有用感【問14~18】

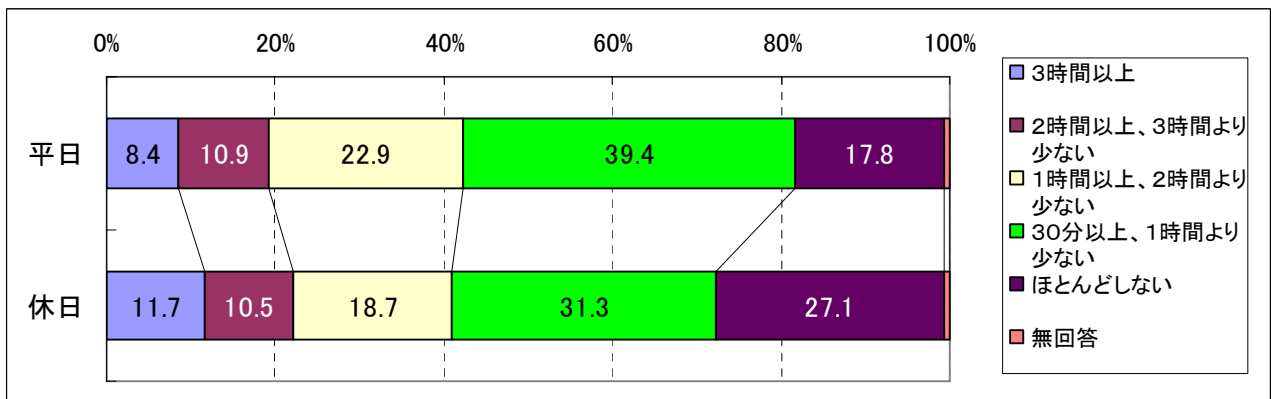


○学習に対する有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）が最も高いのは、「算数」で94.4%、次に、「国語」（91.4%）、「社会」（88.8%）、「理科」（83.7%）、「総合的な学習の時間」（83.7%）と続いている。

○過去3年間の各教科の平均は、「国語」が91.7%、「社会」が88.4%、「算数」が94.5%、「理科」が83.4%、「総合」が83.1%である。

4 家庭学習の実態

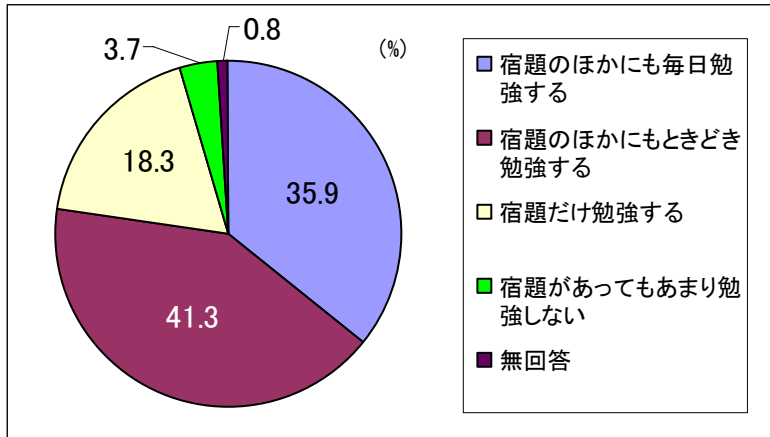
(1) 学習時間【問20~21】



○平日、休日とも「30分以上、1時間より少ない」が最も多く、「1時間以上、2時間より少ない」を合わせると、平日では62.3%、休日では50.0%である。

○「ほとんどしない」という回答は、平日は17.8%、休日は27.1%であり、休日の方が9.3ポイント高い。一方、「3時間以上」と回答した比較的勉強時間が長い児童の割合も、休日の方が平日より3.3ポイント高い。

(2) 学習内容【問22】



○「宿題のほかに毎日勉強する」が41.3%で最も多く、「宿題のほかにもときどき勉強する」が35.9%で続いている。

○「宿題があってもあまり勉強しない」と回答した児童は3.7%である。

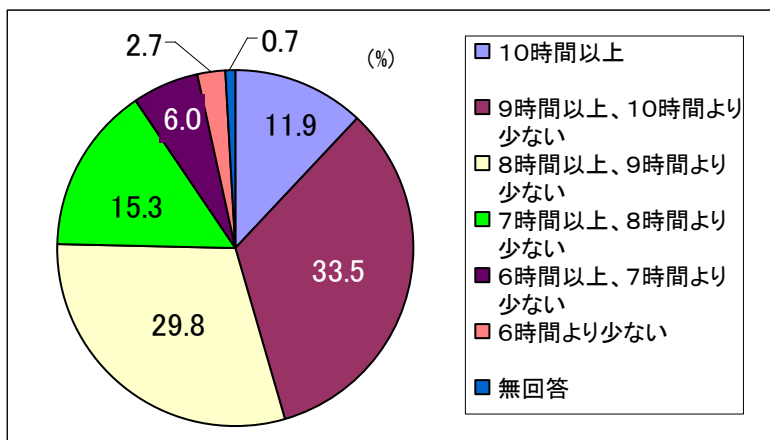
(3) 通塾【問23】 (%)

	通っている	通っていない	無回答
H18	52.9	45.5	1.6
H19	52.9	46.2	0.9
H20	51.8	47.3	0.9

○学習塾に通っている児童は51.8%で、19年度に比べ、1.1ポイント減少している。

5 家庭生活の実態

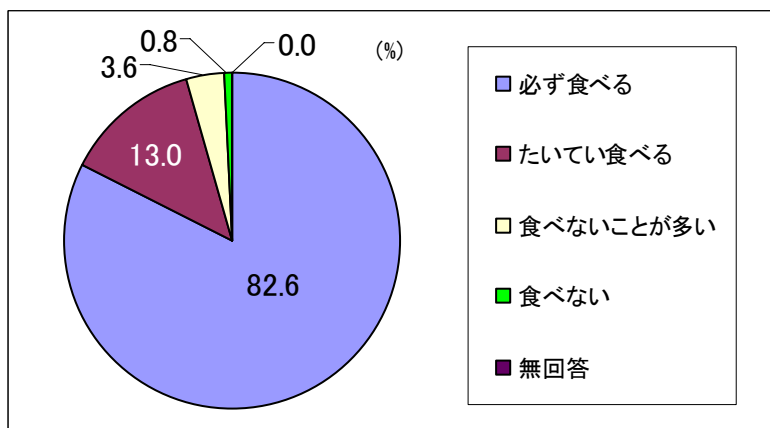
(1) 睡眠時間【問24】



○「9時間以上、10時間より少ない」(33.5%)、「8時間以上、9時間より少ない」(29.8%)という回答が多く、約6割の児童は睡眠時間が「8～10時間」である。

○睡眠時間が7時間未満の児童の割合は8.7%で、1割未満である。

(2) 朝食の摂取【問25】

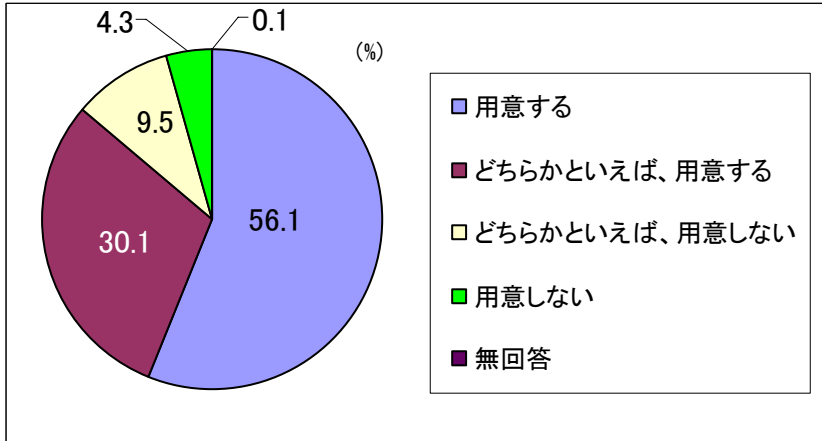


○「必ず食べる」と回答している児童の割合は82.6%であり、「たいてい食べる」を合わせると、95.6%である。

○「食べない」と回答した児童は0.8%である。

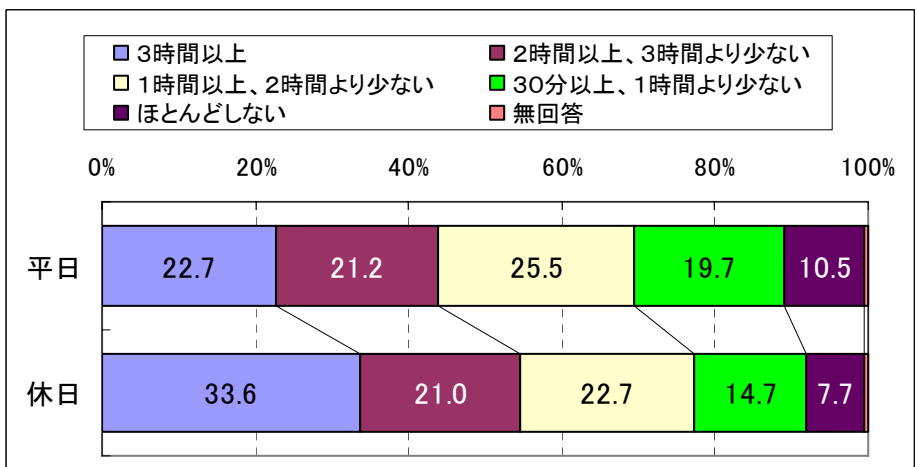
II 調査結果の概要

(3) 学習の準備【問26】



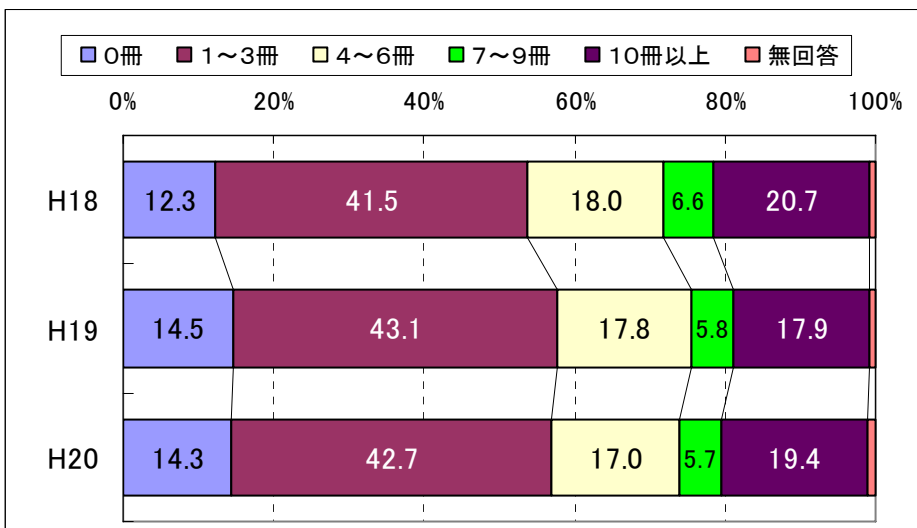
○学校に持って行くものは、前日に「用意する」と回答した児童の割合は56.1%であり、「どちらかといえば、用意する」を合わせると、86.2%である。

(4) テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問27～28】



○視聴・実施時間が「1時間以上」の回答の合計は、平日：69.4%、休日：77.3%である。
○「3時間以上」は、平日は22.7%、休日は33.6%で、19年度に比べ、平日は2.4ポイント、休日は4.9ポイント増加している。
(P.66 問27, 28を参照)

(5) 1ヶ月の読書量【問29】



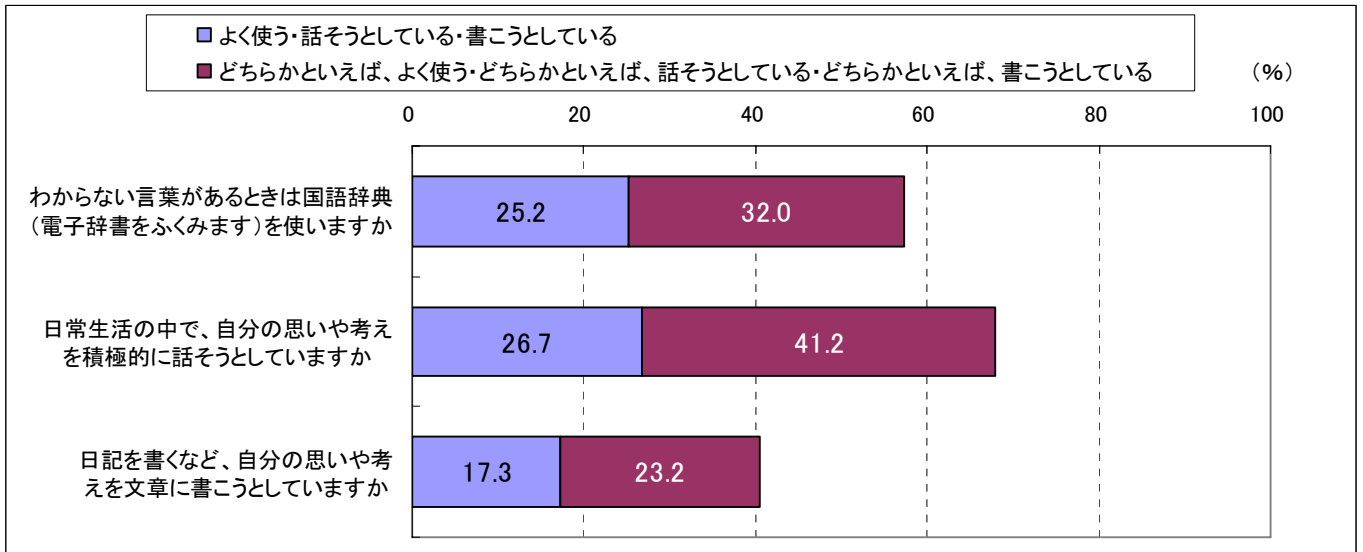
	平均冊数
H18	5.3冊
H19	4.7冊
H20	5.0冊

*31冊以上の回答は集計から除外しています。

○「1～3冊」が42.7%で最も多く、「10冊以上」が19.4%、「4冊～6冊」が17.0%である。1冊も読まない児童の割合は14.3%である。
○19年度に比べ、「10冊以上」が1.5ポイント増加している。「0冊」は0.2ポイント減少している。平均冊数は4.7冊から0.3冊増加し、5.0冊である。

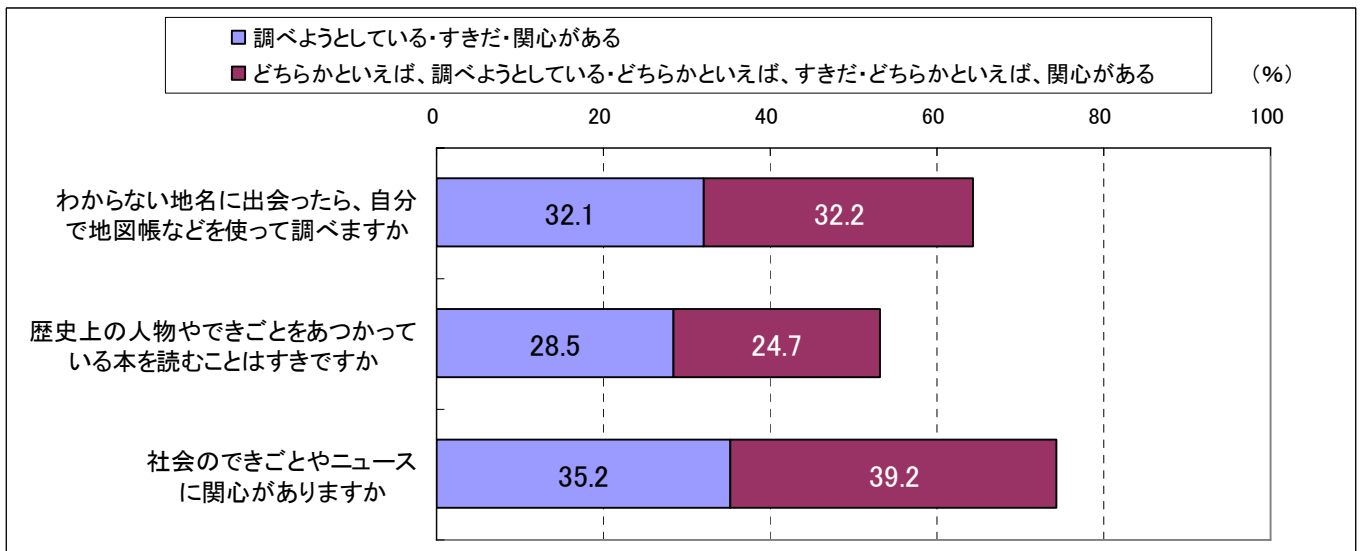
6 各教科等に対する意識・実態

(1) 国語【問30～32】



○わからない言葉があるときに国語辞典を使う児童は、「どちらかといえば」を含めると、57.2%である。
 ○「自分の思いや考え」を積極的に話そうとしている児童、文章に書こうとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ67.9%、40.5%である。「書くこと」よりも「話すこと」で自分の思いや考えを伝えようとしている児童が多い。

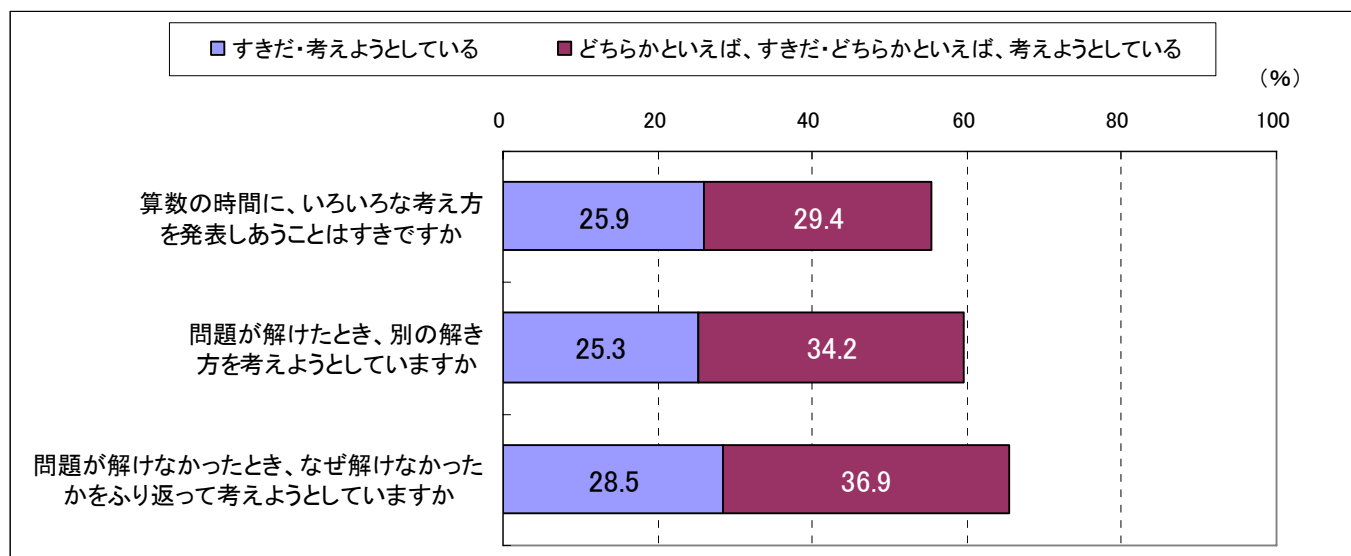
(2) 社会【問33～35】



○自分で地図帳などを使って地名を調べる児童は、「どちらかといえば」を含めると、64.3%である。
 ○歴史に関する本を読むことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、53.2%である。
 ○社会事象やニュースに関心がある児童は多く、「どちらかといえば」を含めると、74.4%である。

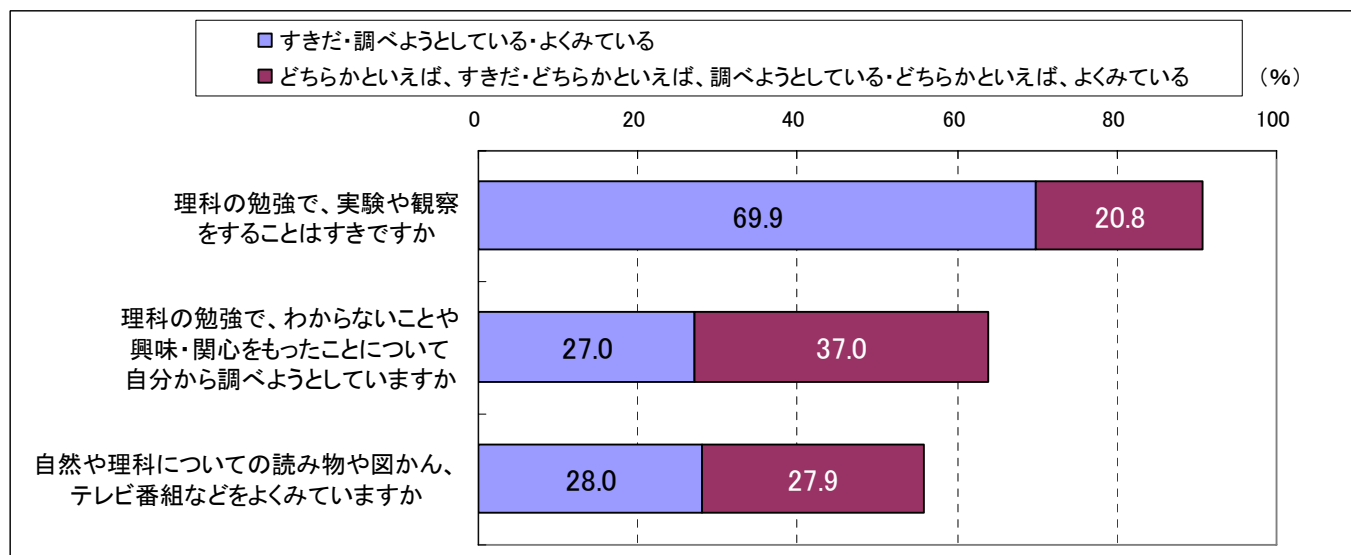
II 調査結果の概要

(3) 算数【問36~38】



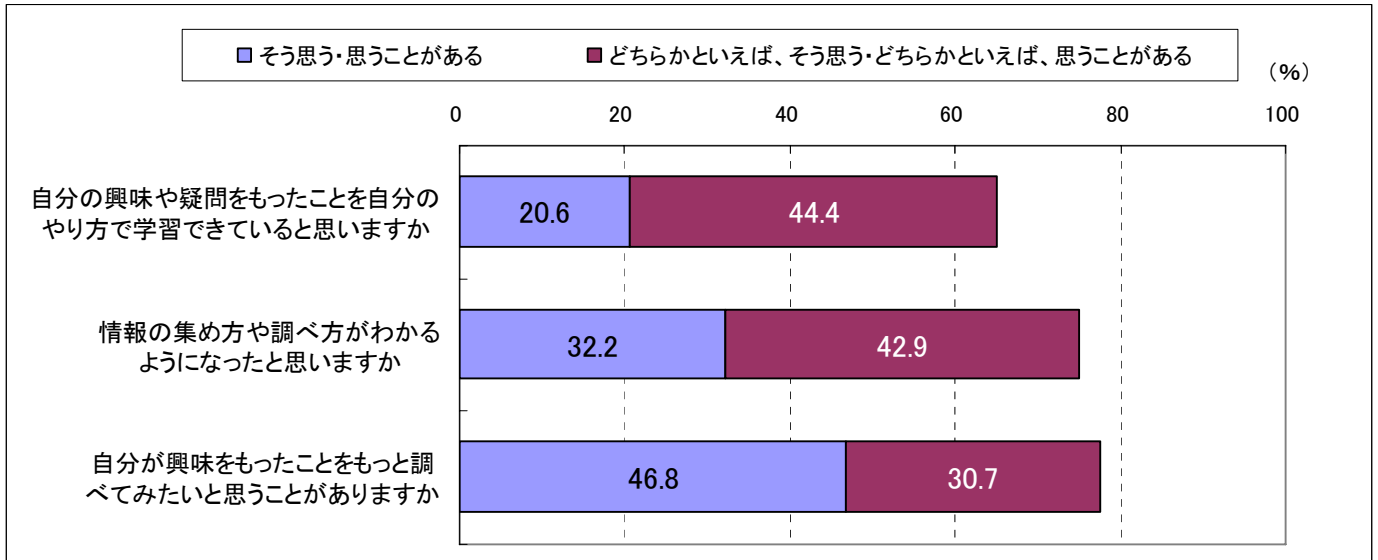
○いろいろな考え方を発表し合うことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、55.3%である。
 ○問題を解けたときに別の解き方を考えようとしている児童、解けなかったときにその理由を考えようとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ59.5%、65.4%である。

(4) 理科【問39~41】



○理科の実験や観察の授業が好きな児童が多く、「好きだ」が69.9%、「どちらかといえば、好きだ」を含めると90.7%である。
 ○分からないことや興味・関心をもったことを自分から調べようとする児童、自然・理科に関する読み物や図鑑、テレビ番組などをみている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ64.0%、55.9%である。

(5) 総合的な学習の時間【問 42~44】

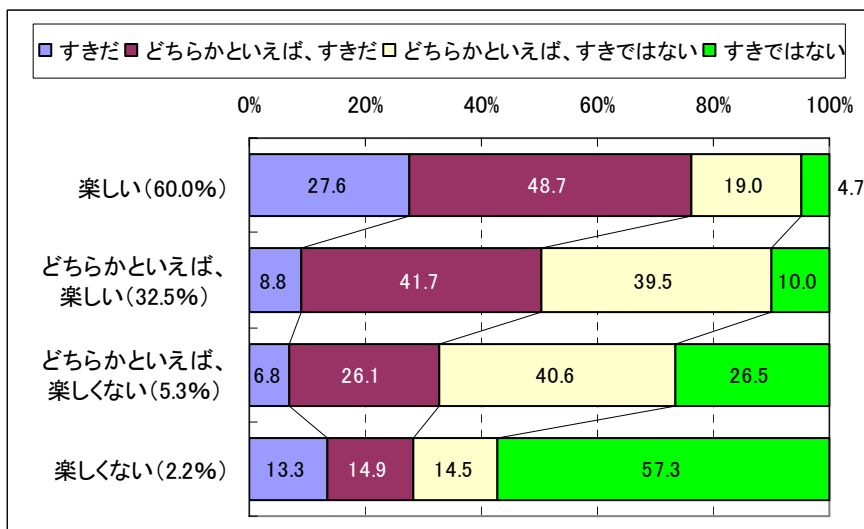


○総合的な学習の時間の中で、興味や関心をもったことを自分のやり方で学習できていると思っている児童、情報の集め方や調べ方が分かるようになったと思っている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 65.0%、75.1%である。

○興味をもったことについてもっと調べてみたいと思うと回答している児童は多く、「どちらかといえば」を含めると、77.5%である。

クロス集計

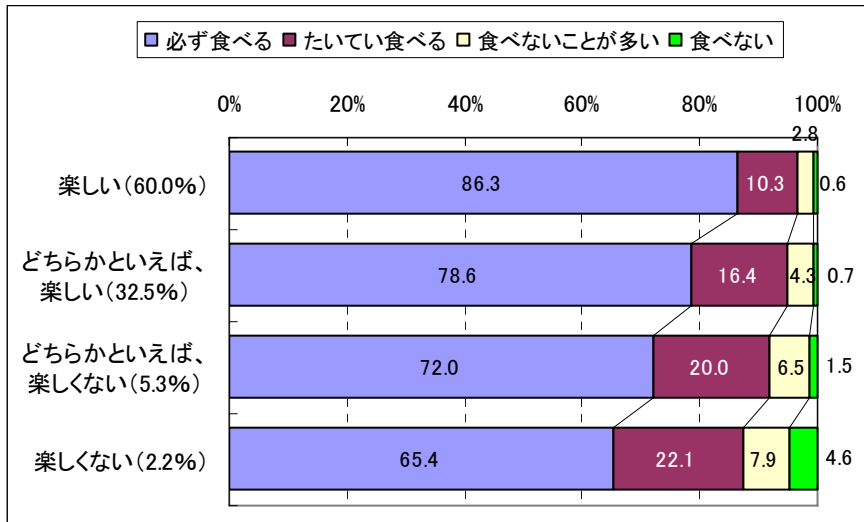
1 学校生活の楽しさ【問 1】×学習に対する好感度【問 2】



○学校生活が楽しい児童ほど、学習に対する好感度が高い傾向がある。

○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の 71.8%、「どちらかといえば、楽しくない」と回答した児童の 67.1%が勉強は「すきではない」、「どちらかといえば、すきではない」と答えている。

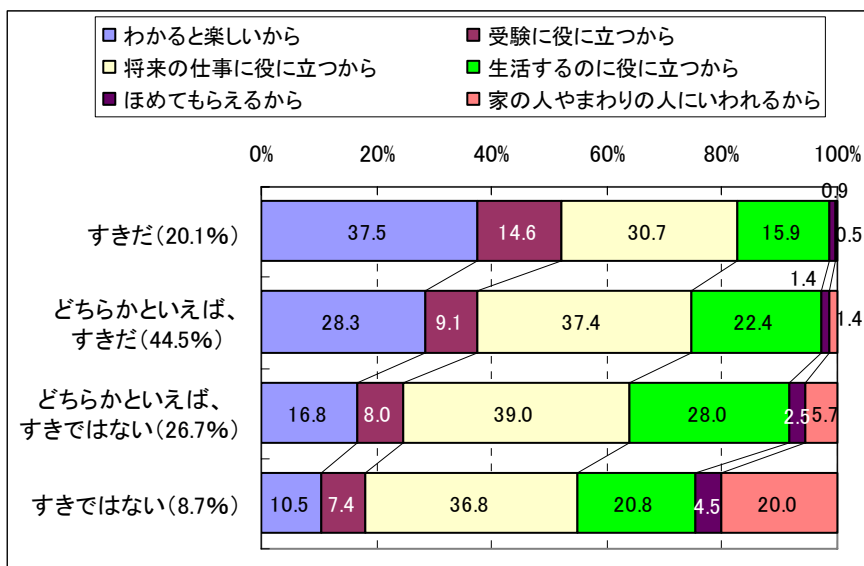
2 学校生活の楽しさ【問1】×朝食の摂取【問25】



○学校生活が楽しい児童は、朝食の摂取状況が良好な状況にある。

○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の朝食を必ず食べる割合は、「楽しい」と答えた児童の朝食を必ず食べる割合よりも20.9ポイント低い。

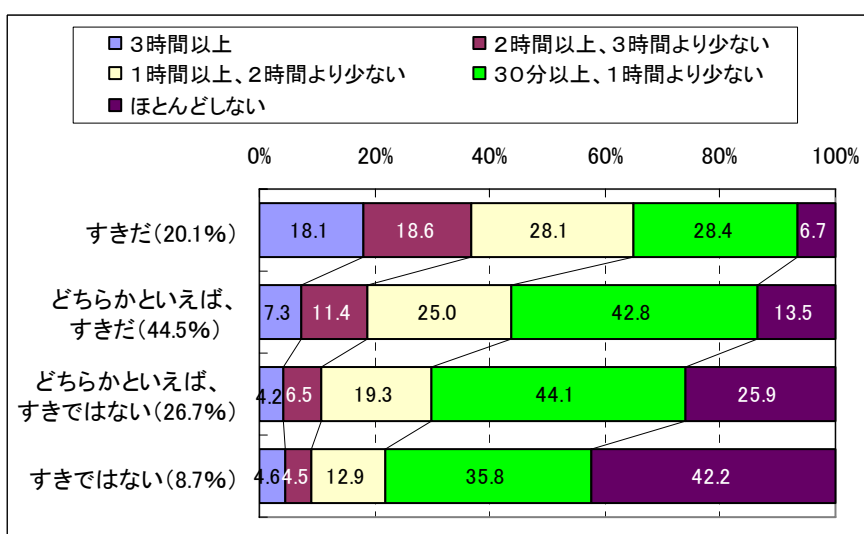
3 学習に対する好感度【問2】×勉強する理由【問4】



○好感度が高い児童ほど、「わかると楽しいから」と回答する割合が多い。「すきだ」と回答した児童と「すきではない」と答えた児童では27.0ポイントの差がある。

○「すきではない」と回答した児童の20.0%が勉強する理由として、「家の人やまわりの人にいわれるから」を挙げており、他と比べて多い。

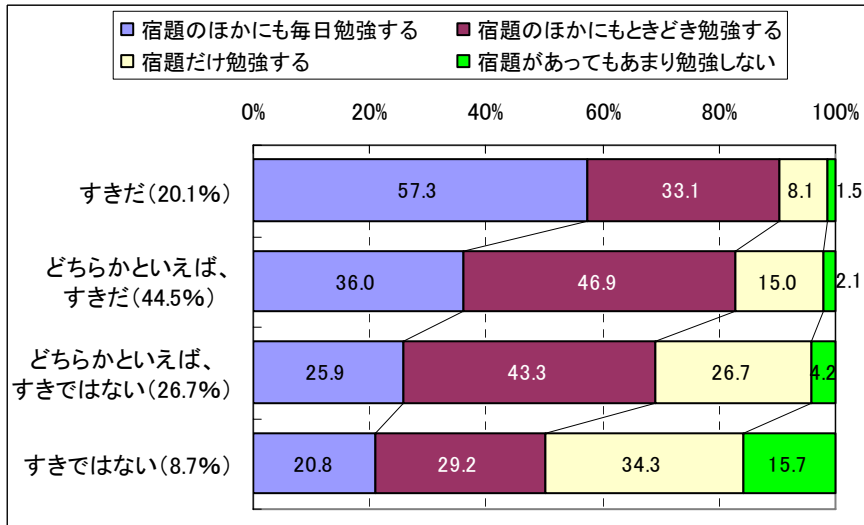
4 学習に対する好感度【問2】×家庭学習時間(平日)【問20】



○好感度が高い児童ほど、平日の家庭学習時間が長い傾向にある。

○勉強が「すきではない」と回答した児童の6割近くは、30分以上の家庭学習を行っている。

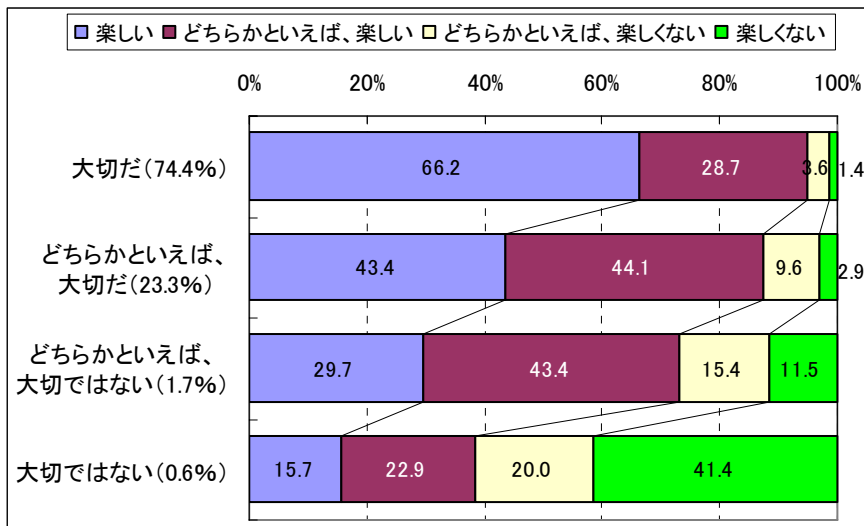
5 学習に対する好感度【問2】 × 家庭学習の内容【問22】



○勉強が「好きだ」と回答した児童の57.3%は、「宿題のほかに毎日勉強する」と回答している。

○「好きではない」と回答した児童の50.0%が宿題以外の勉強をしている。

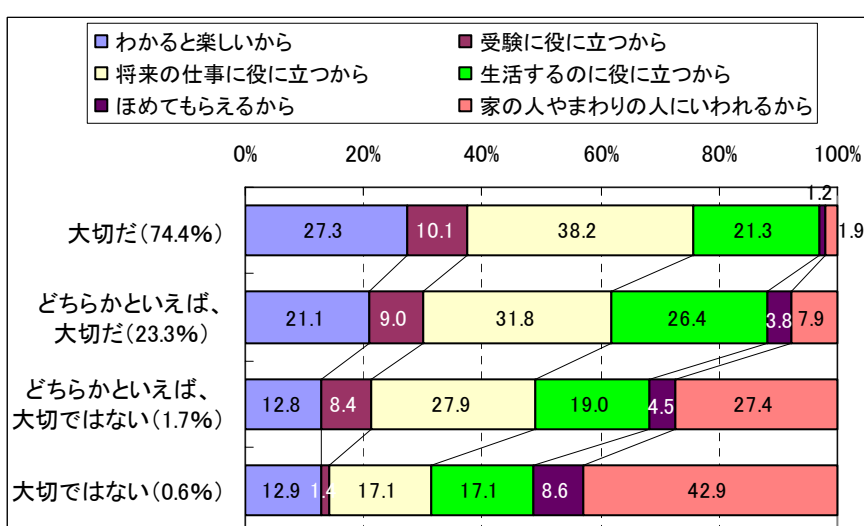
6 学習の必要性【問3】 × 学校生活の楽しさ【問1】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、学校生活を楽しんでいる傾向がある。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童の約4割が学校生活を楽しまないと感じている。

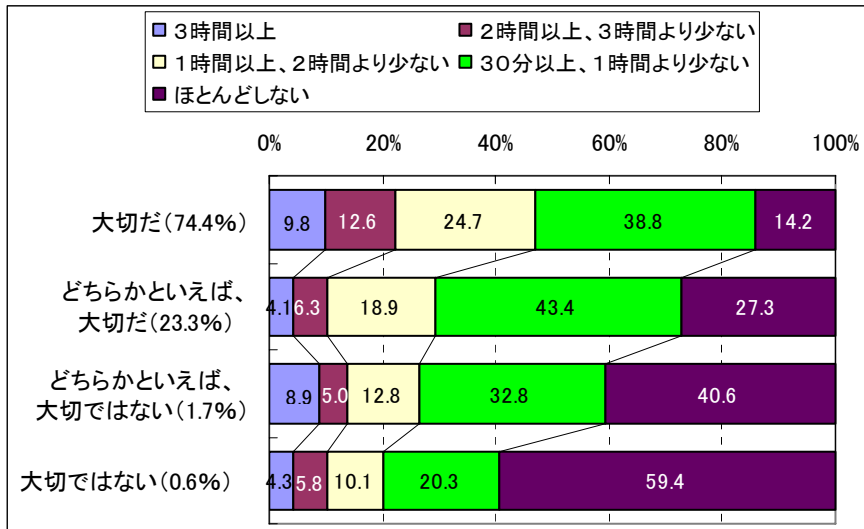
7 学習の必要性【問3】 × 勉強する理由【問4】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、「将来の仕事に役に立つから」や「わかると楽しいから」を勉強する理由に挙げている割合が高い。

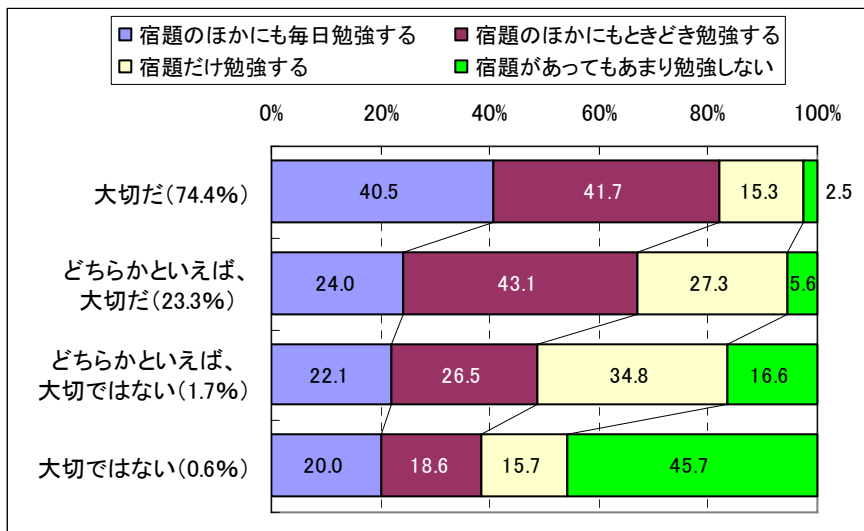
○学習が「大切ではない」と回答した児童のうち、42.9%が勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を挙げている。

8 学習の必要性【問3】×家庭学習時間（平日）【問20】



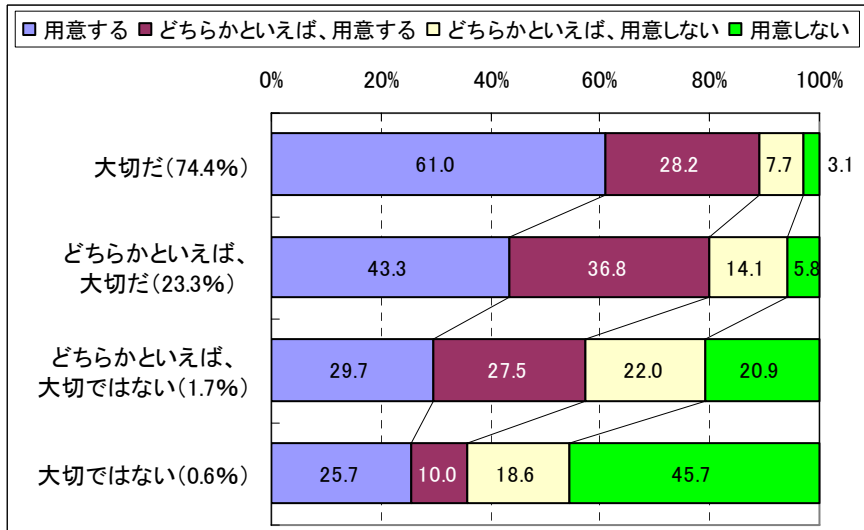
○平日に家庭学習をしている割合は、学習に対する必要性を感じている児童ほど高い。
○勉強が「大切だ」、「どちらかといえば、大切だ」と回答した児童の家庭学習時間で一番多いのは、「30分以上、1時間より少ない」である。

9 学習の必要性【問3】×家庭学習の内容【問22】



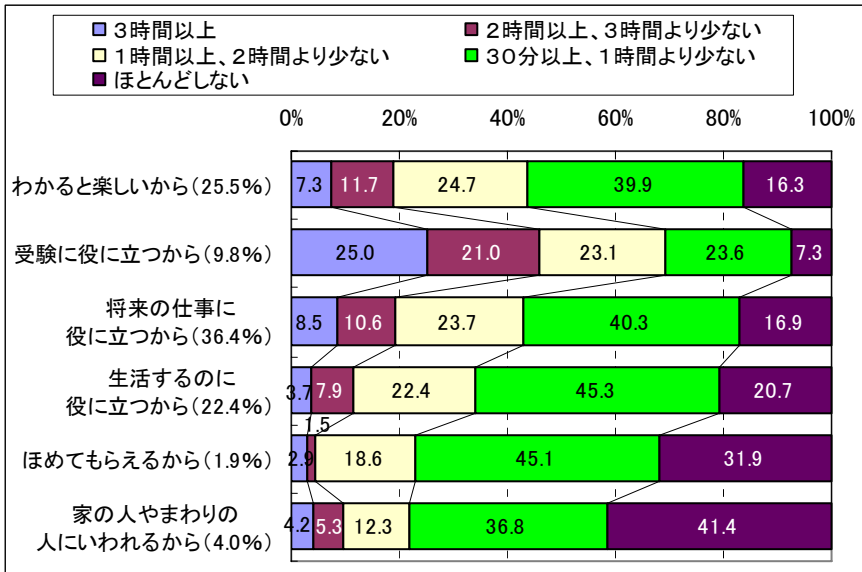
○勉強が「大切だ」と回答した児童のうち、82.2%の児童が、宿題の他にも毎日またはときどき勉強すると回答している。
○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうちの45.7%は「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

10 学習の必要性【問3】×学習の準備【問26】



○勉強が「大切だ」と回答した児童の約9割が、前日に学校の持ち物を「用意する」、「どちらかといえば、用意する」と回答している。
○勉強が「大切ではない」と回答した児童で、前日に「用意する」、「どちらかといえば、用意する」と回答した児童は35.7%にとどまっている。

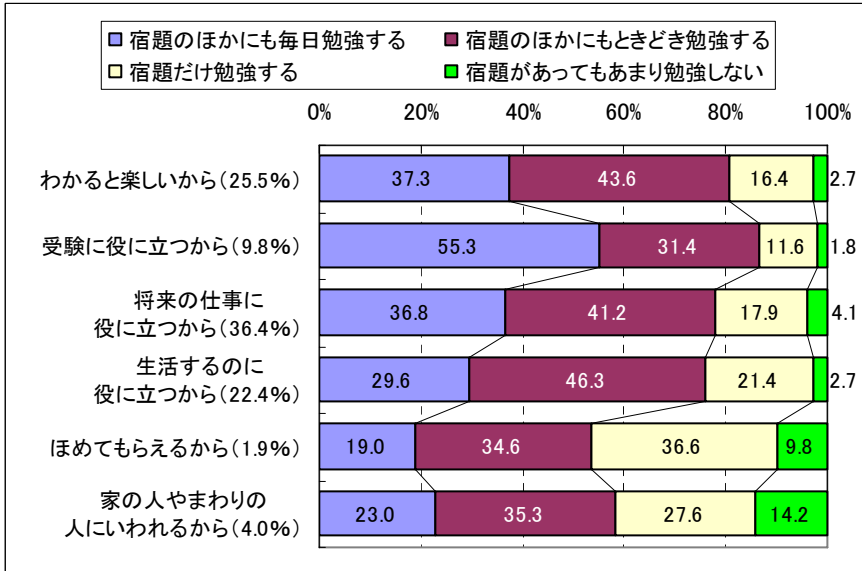
11 勉強する理由【問4】×家庭学習時間（平日）【問20】



○勉強する理由として「受験に役に立つから」を挙げた児童は勉強時間が長い傾向がある。

○勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を挙げた児童の41.4%が、勉強を「ほとんどしない」と回答している。

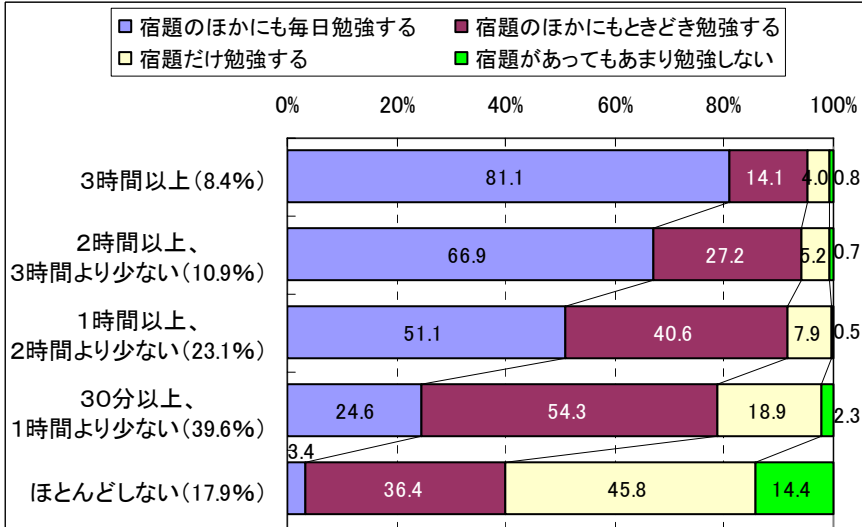
12 勉強する理由【問4】×家庭学習の内容【問22】



○「わかると楽しい」、「将来の仕事に役に立つ」、「生活するのに役に立つ」と回答した児童の75~80%が「宿題のほかに毎日勉強する」、「宿題のほかにもときどき勉強する」と回答している。

○勉強する理由として「受験に役に立つから」と回答した児童には、宿題の他にも毎日勉強する傾向がある。

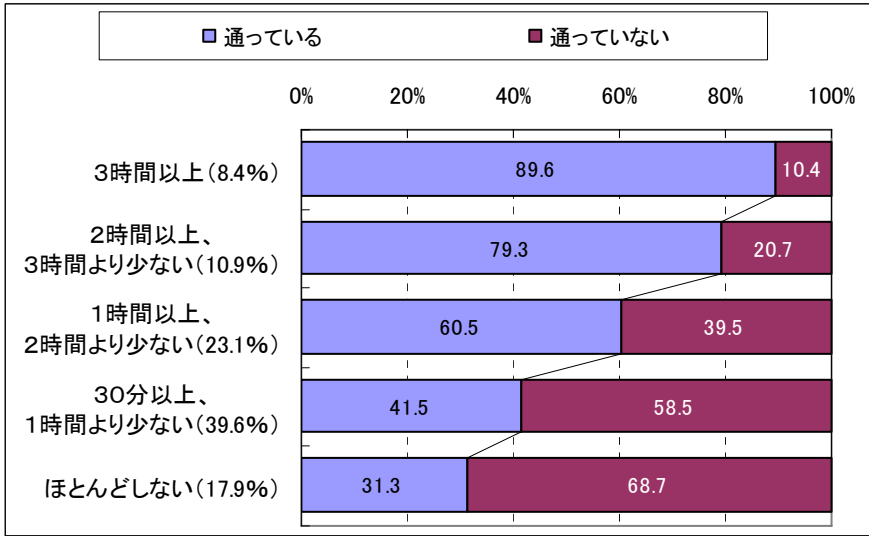
13 家庭学習時間（平日）【問20】×家庭学習の内容【問22】



○平日の家庭学習時間が長い児童ほど、宿題の他にも毎日勉強している傾向がある。

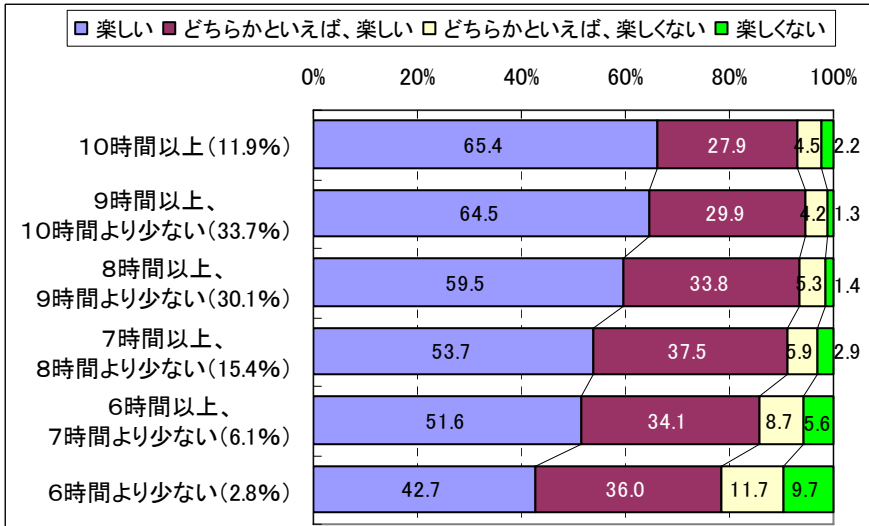
○「ほとんどしない」と回答した児童では45.8%が「宿題だけ勉強する」、14.4%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

14 家庭学習時間（平日）【問20】 × 通塾【問23】



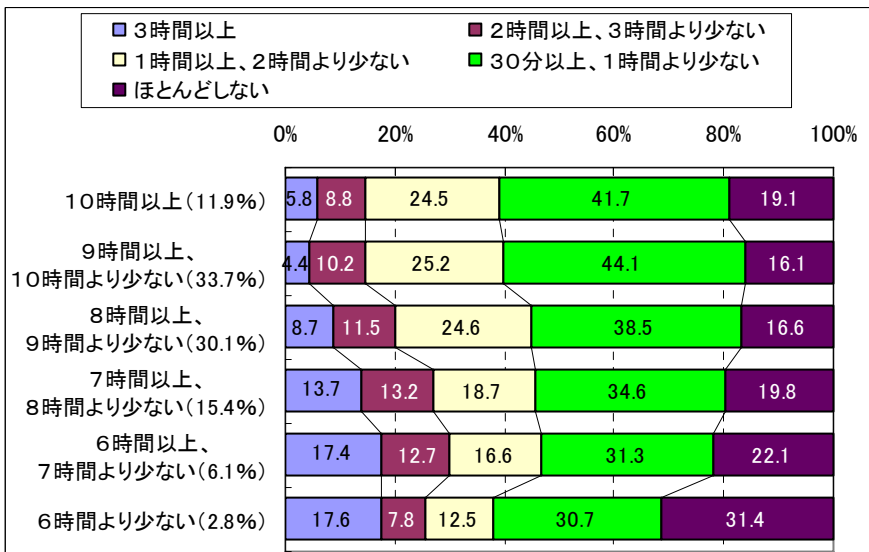
○平日の学習時間が長い児童ほど、学習塾に通っている割合が高い。
 ○家庭学習時間が「3時間以上」、「2時間以上、3時間より少ない」の中で、通塾者の占める割合は、それぞれ89.6%、79.3%である。

15 睡眠時間【問24】 × 学校生活の楽しさ【問1】



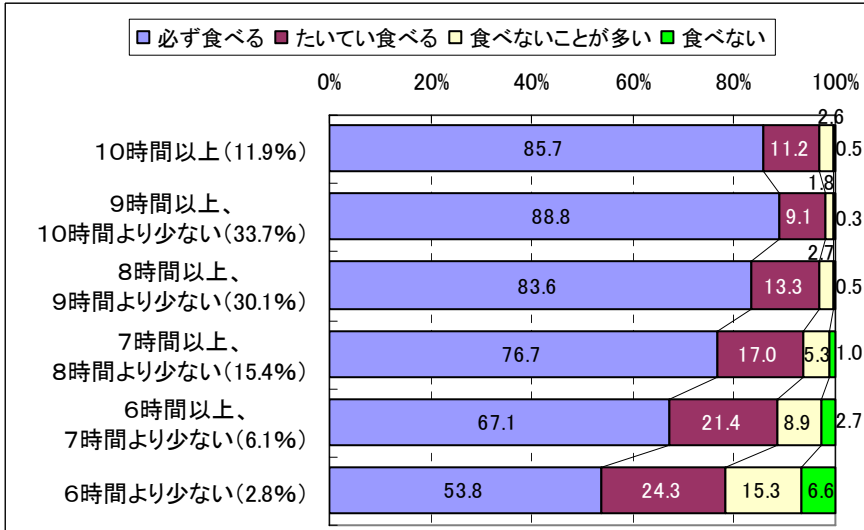
○睡眠時間が長い児童ほど、学校生活が「楽しい」と回答している。
 ○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の21.4%が、学校生活は「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

16 睡眠時間【問24】 × 家庭学習時間（平日）【問20】



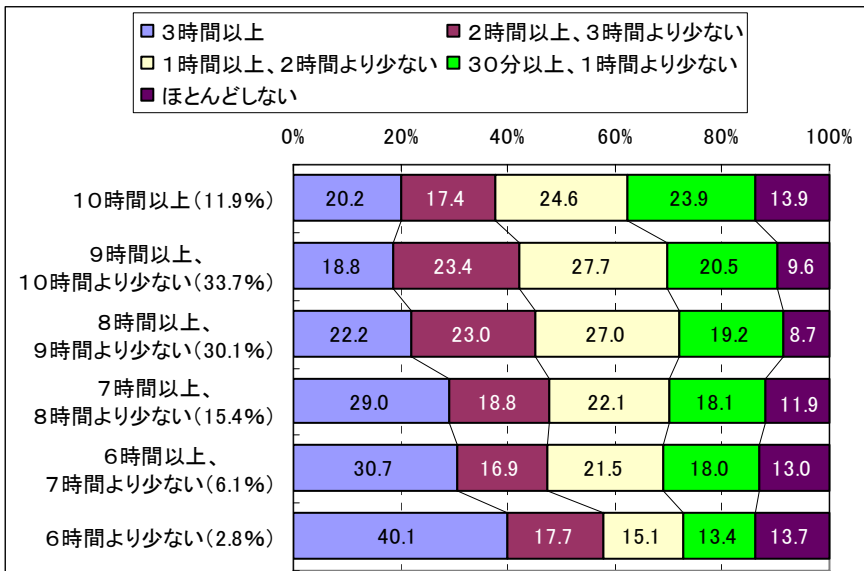
○睡眠時間が10時間以上の場合を除くと、睡眠時間が短いほど、勉強を「ほとんどしない」、「3時間以上」と回答した児童の割合が両方とも増え、勉強時間が「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合は減る。

17 睡眠時間【問24】 × 朝食の摂取【問25】



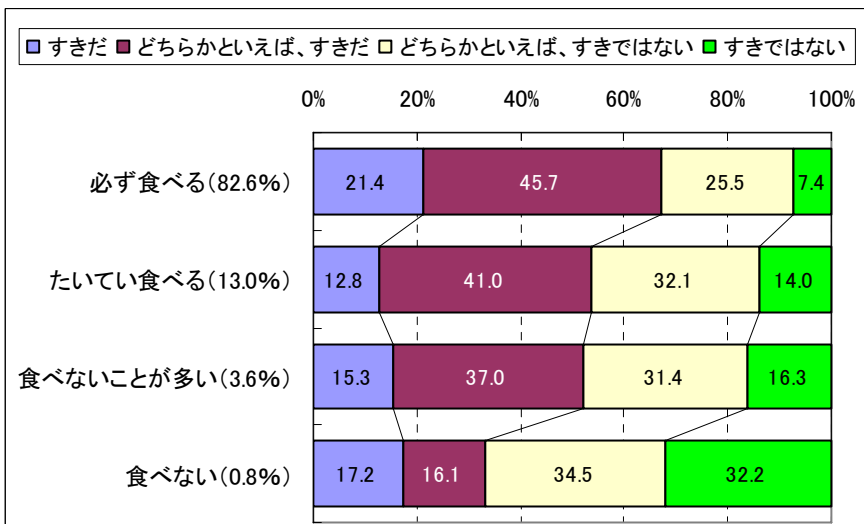
○睡眠時間が長い児童ほど、朝食の摂取状況が良好な傾向にある。
○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童のうち、朝食を「必ず食べる」と回答した児童は53.8%である。

18 睡眠時間【問24】 × テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問27】



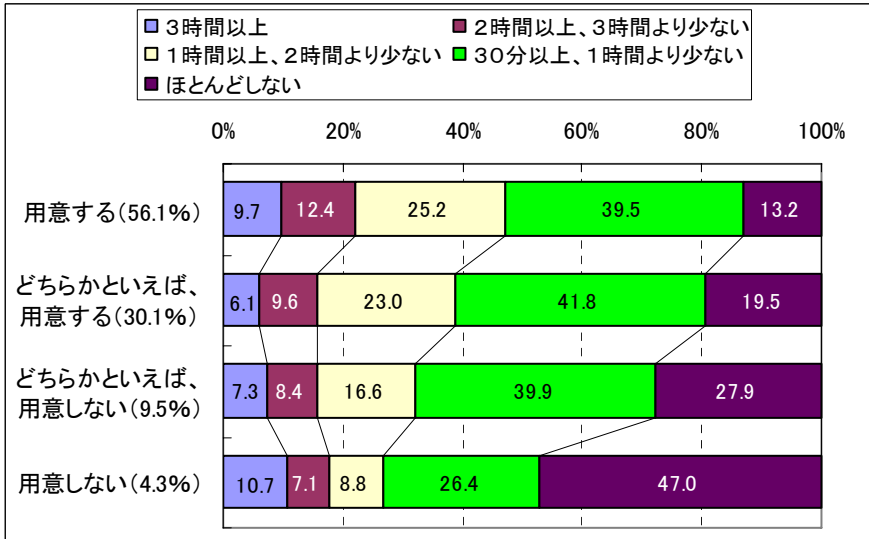
○睡眠時間が「10時間以上」と回答した児童を除くと、睡眠時間が短いほど、テレビの視聴時間などが「3時間以上」、「ほとんどしない」と回答した児童の割合が増え、「1時以上、2時間より少ない」、「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童の割合は減る。

19 朝食の摂取【問25】 × 学習に対する好感度【問2】



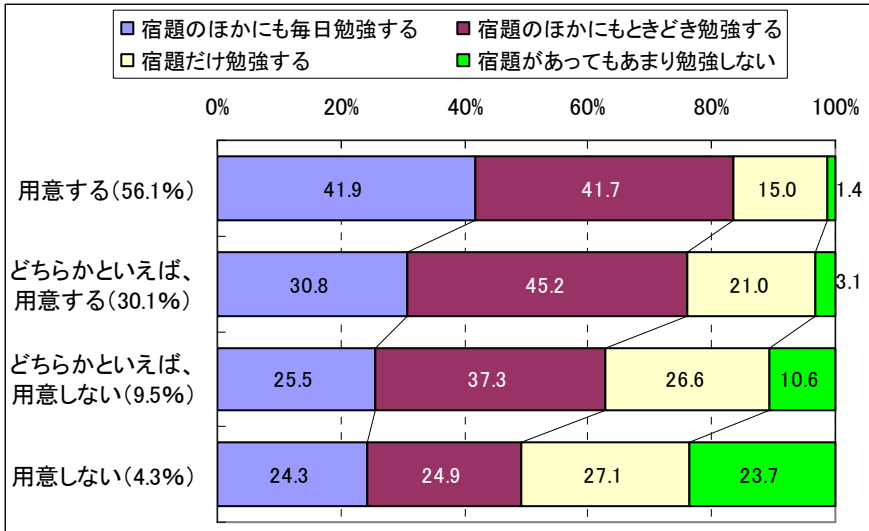
○朝食を「必ず食べる」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は67.1%であるのに対して、「食べない」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は33.3%である。

20 学習の準備【問26】×家庭学習時間（平日）【問20】



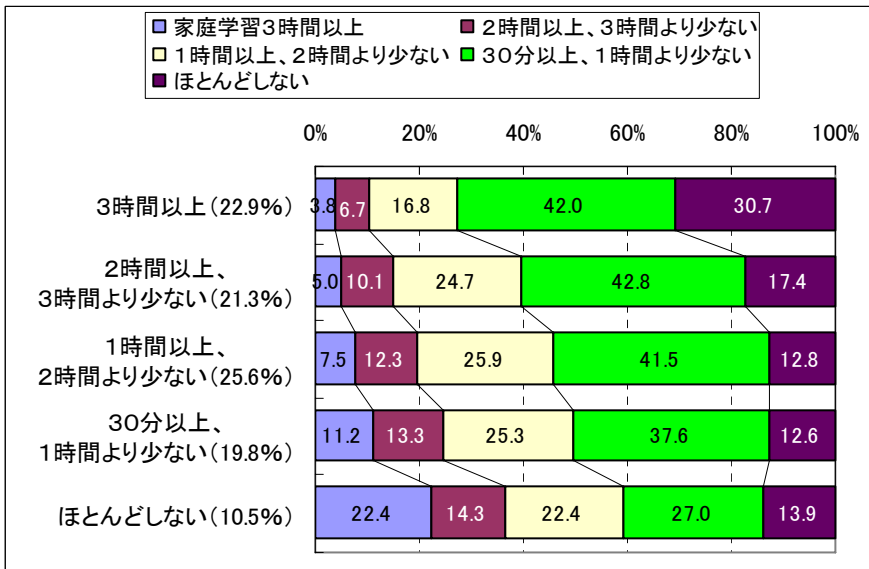
○前日に学校の持ち物を用意する児童ほど、家庭学習をしている割合が高い。
 ○「用意しない」の中で見ると、家庭学習を「ほとんどしない」児童の占める割合は47.0%である。

21 学習の準備【問26】×家庭学習の内容【問22】



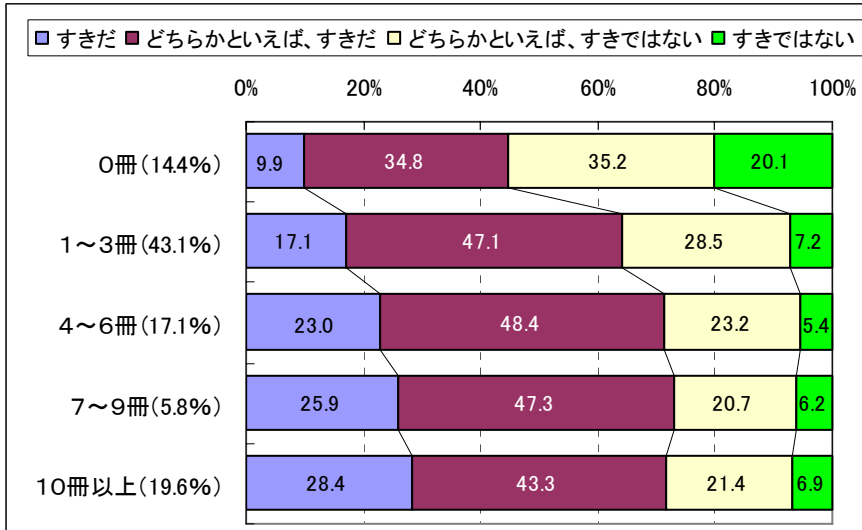
○前日に学校の持ち物を用意する児童ほど、家庭で宿題をしたり、他にも勉強したりしている傾向がある。
 ○「用意しない」と回答した児童のうち、「宿題があってもあまり勉強しない」児童の割合は23.7%である。

22 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問27】×家庭学習時間（平日）【問20】



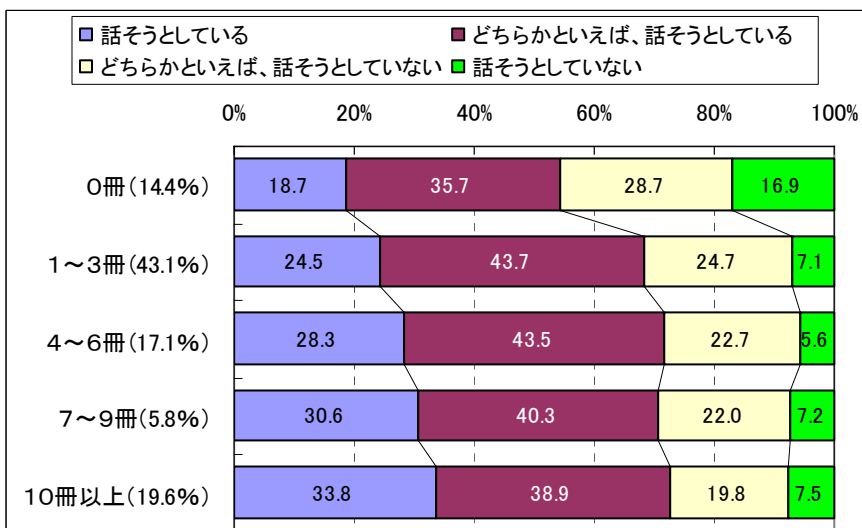
○テレビの視聴時間などが短い児童ほど、平日の家庭学習の時間が「3時間以上」の割合が高くなり、逆に、長い児童ほど、家庭学習を「ほとんどしない」割合が高くなる。
 ○テレビの視聴時間などが「3時間以上」と回答した児童の30.7%が家庭での学習を「ほとんどしない」と答えている。

23 1ヶ月の読書量【問29】×学習に対する好感度【問2】



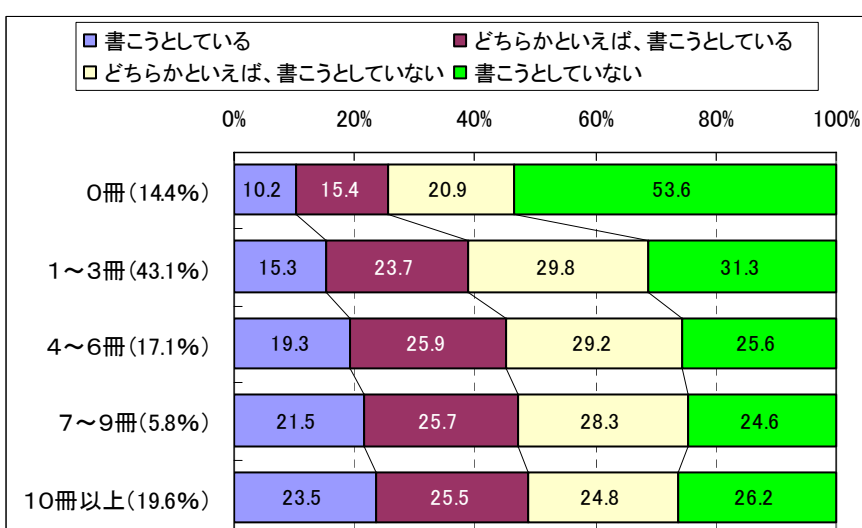
○1ヶ月の読書量が多いほど、勉強が「好きだ」と回答した児童の割合が高い。
 ○1ヶ月に1冊も本を読まない児童の20.1%が勉強が「好きではない」と回答している。「どちらかといえば、好きではない」と合わせると55.3%である。

24 1ヶ月の読書量【問29】×思いや考えを話そうとする意欲【問31】



○1ヶ月の読書量が多いほど、自分の思いや考えを「話そうとしている」と回答している児童の割合が高い。
 ○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、45.6%が、自分の思いや考えを「話そうとしていない」、「どちらかといえば、話そうとしていない」と答えている。

25 1ヶ月の読書量【問29】×思いや考えを書こうとする意欲【問32】



○1ヶ月の読書量が多いほど、自分の思いや考えを文章に「書こうとしている」、「どちらかといえば、書こうとしている」と回答する割合が高い。
 ○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、74.5%が自分の思いや考えを「書こうとしていない」、「どちらかといえば、書こうとしていない」と回答している。

資料 調査結果集計表

(数字はすべて%)

【共通】

問1 学校生活は、楽しいですか。

	楽しい	どちらかといえば、楽しい	どちらかといえば、楽しくない	楽しくない	無回答
H18	59.2	32.9	5.2	2.3	0.4
H19	60.6	32.5	5.0	1.9	0.1
H20	59.9	32.5	5.3	2.2	0.1

問2 勉強は、好きですか。

	好きだ	どちらかといえば、好きだ	どちらかといえば、好きではない	好きではない	無回答
H18	20.6	45.3	25.5	8.3	0.4
H19	20.5	45.0	25.5	8.9	0.1
H20	20.0	44.5	26.7	8.7	0.1

問3 勉強をすることは、大切なことだと思いますか。

	大切だ	どちらかといえば、大切だ	どちらかといえば、大切ではない	大切ではない	無回答
H18	75.4	22.1	1.5	0.6	0.5
H19	75.1	22.8	1.4	0.6	0.1
H20	74.3	23.3	1.7	0.6	0.1

問4 勉強をする一番の理由はなんですか。

	わかると楽しいから	受験に役に立つから	将来の仕事に役に立つから	生活するのに役に立つから	ほめてもらえるから	家の人やまわりの人にいわれるから	無回答
H18	23.7	9.9	39.3	22.2	1.2	3.0	0.7
H19	22.6	10.7	39.0	22.7	1.3	3.3	0.4
H20	25.4	9.7	36.2	22.3	1.9	4.0	0.4

問5～9 次の学習は好きですか。

		好きだ	どちらかといえば、好きだ	どちらかといえば、好きではない	好きではない	無回答
国語	H18	30.3	38.9	21.3	8.3	1.2
	H19	29.5	39.4	20.5	8.8	1.7
	H20	28.4	38.9	22.2	9.0	1.5
社会	H18	27.3	36.5	23.9	11.0	1.3
	H19	26.3	33.7	25.3	12.8	1.9
	H20	27.4	33.3	25.1	12.4	1.7
算数	H18	41.4	29.4	16.7	11.1	1.5
	H19	40.2	29.3	17.3	11.2	1.9
	H20	40.3	29.8	17.2	10.8	1.8
理科	H18	53.2	30.8	10.3	4.1	1.6
	H19	51.8	31.6	10.6	4.0	1.9
	H20	51.2	32.0	10.6	4.5	1.8
総合	H18	43.5	38.6	11.5	4.5	2.0
	H19	42.5	38.6	12.5	4.4	2.1
	H20	42.3	39.5	12.0	4.3	1.9

問10～13 次の授業は、よくわかりますか。

		わかる	どちらかといえば、 わかる	どちらかといえば、 わからない	わからない	無回答
国語	H18	53.2	36.7	7.4	1.8	1.0
	H19	54.2	35.9	6.6	2.0	1.3
	H20	53.6	36.6	6.9	1.8	1.0
社会	H18	45.3	39.3	11.3	2.8	1.2
	H19	44.6	38.1	12.7	3.0	1.5
	H20	46.3	36.9	12.6	3.1	1.1
算数	H18	55.8	28.8	10.5	3.8	1.2
	H19	55.5	29.3	10.0	3.6	1.6
	H20	55.9	30.0	9.6	3.3	1.3
理科	H18	62.2	29.8	5.6	1.4	1.0
	H19	62.1	30.3	4.8	1.3	1.5
	H20	61.7	30.8	5.0	1.3	1.2

問14～18 授業で学んだことは、生活の中で役に立っていると思いますか。

		役に立つ	どちらかといえば、 役に立つ	どちらかといえば、 役に立たない	役に立たない	無回答
国語	H18	65.1	26.7	5.5	1.8	1.0
	H19	63.8	28.2	5.0	1.7	1.3
	H20	61.5	29.9	5.8	1.9	1.0
社会	H18	54.0	34.1	8.2	2.5	1.2
	H19	56.6	31.7	7.9	2.2	1.5
	H20	56.7	32.1	7.8	2.2	1.2
算数	H18	77.0	17.5	3.0	1.2	1.3
	H19	75.5	19.2	2.6	1.2	1.6
	H20	76.0	18.4	3.1	1.3	1.2
理科	H18	43.8	39.3	12.3	3.2	1.4
	H19	44.7	38.8	12.0	2.7	1.8
	H20	45.1	38.6	12.0	2.9	1.4
総合	H18	45.3	37.4	10.6	4.0	2.8
	H19	45.3	37.7	10.8	3.5	2.7
	H20	45.1	38.6	10.1	3.6	2.7

問19 授業の中で、わからないことがあったら、どうすることが多いですか。

	その場で先生 にたずねる	授業が終わって から先生に たずねる	友だちにたず ねる	家の人にたず ねる	じゆくや家庭 教師の先生に たずねる	自分で調べる	そのままにし ておく
H18	47.5	26.7	64.4	70.5	15.9	50.9	23.2
H19	46.6	27.6	61.7	69.6	16.8	49.4	22.5
H20	45.8	26.8	64.7	70.1	15.9	47.8	25.2

問20 学校のある日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、3時 間より少ない	1時間以上、2時 間より少ない	30分以上、1時 間より少ない	ほとんどしない	無回答
H18	7.3	10.6	23.7	38.7	18.5	1.2
H19	7.8	11.3	24.0	38.2	18.1	0.5
H20	8.4	10.9	22.9	39.4	17.8	0.6

問21 学校が休みの日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H18	9.7	10.5	19.8	31.4	27.4	1.2
H19	10.5	10.4	20.1	31.9	26.3	0.6
H20	11.7	10.5	18.7	31.3	27.1	0.7

問22 ふだん、家でしている勉強は、どれに近いですか。

	宿題のほかにも毎日勉強する	宿題のほかにもときどき勉強する	宿題だけ勉強する	宿題があってもあまり勉強しない	無回答
H18	34.3	41.4	18.9	4.2	1.2
H19	35.1	41.6	19.1	3.5	0.8
H20	35.9	41.3	18.3	3.7	0.8

問23 学習じゆくに、通っていますか。

	通っている	通っていない	無回答
H18	52.9	45.5	1.6
H19	52.9	46.2	0.9
H20	51.8	47.3	0.9

問24 学校がある日の、睡眠時間はどれぐらいですか。

	10時間以上	9時間以上、10時間より少ない	8時間以上、9時間より少ない	7時間以上、8時間より少ない	6時間以上、7時間より少ない	6時間より少ない	無回答
H18	11.8	31.3	30.5	16.1	6.4	2.6	1.3
H19	12.0	31.3	30.6	15.7	6.8	2.8	0.9
H20	11.9	33.5	29.8	15.3	6.0	2.7	0.7

問25 毎日、朝食を食べますか。

	必ず食べる	たいてい食べる	食べないことが多い	食べない	無回答
H18	80.5	14.0	4.1	0.9	0.5
H19	81.8	13.7	3.7	0.8	0.1
H20	82.6	13.0	3.6	0.8	0.0

問26 学校に持って行くものは、前日にきちんと用意しますか。

	用意する	どちらかといえば、用意する	どちらかといえば、用意しない	用意しない	無回答
H18	56.5	29.2	9.5	4.2	0.6
H19	56.7	29.2	9.9	3.9	0.2
H20	56.1	30.1	9.5	4.3	0.1

問27 学校のある日、家でどのくらいテレビやビデオをみたり、テレビゲームをしますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H18	22.3	20.3	25.9	20.6	10.1	0.8
H19	20.3	20.2	26.7	22.0	10.3	0.5
H20	22.7	21.2	25.5	19.7	10.5	0.5

問28 学校が休みの日、家でどのくらいテレビやビデオをみたり、テレビゲームをしますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H18	31.0	21.1	23.3	15.2	8.4	0.9
H19	28.7	21.6	24.0	17.0	8.2	0.5
H20	33.6	21.0	22.7	14.7	7.7	0.4

問29 月に何さつぐらい本（マンガ・雑誌をのぞく）を読みますか。[*31冊以上の回答は集計から除外]

	0冊	1～3冊	4～6冊	7～9冊	10冊以上	無回答	平均冊数
H18	12.3	41.5	18.0	6.6	20.7	0.9	5.3
H19	14.5	43.1	17.8	5.8	17.9	0.9	4.7
H20	14.3	42.7	17.0	5.7	19.4	1.0	5.0

【国語】

問30 わからない言葉があるときは国語辞典（電子辞書をふくみます）を使いますか。

	よく使う	どちらかといえば、よく使う	どちらかといえば、あまり使わない	あまり使わない	無回答
H18	24.8	32.6	25.1	17.0	0.5
H19	25.9	33.3	24.5	16.2	0.1
H20	25.2	32.0	25.3	17.4	0.1

問31 日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話そうとしていますか。

	話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしている	どちらかといえば、話そうしていない	話そうしていない	無回答
H18	25.2	43.0	23.0	8.2	0.6
H19	26.6	41.4	23.9	8.0	0.2
H20	26.7	41.2	23.6	8.4	0.1

問32 日記を書くなど、自分の思いや考えを文章に書こうとしていますか。

	書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしている	どちらかといえば、書こうしていない	書こうしていない	無回答
H18	18.4	22.9	25.4	32.8	0.6
H19	20.1	22.9	26.2	30.6	0.2
H20	17.3	23.2	27.2	32.1	0.2

【社会】

問33 わからない地名に出会ったら、自分で地図帳などを使って調べますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしている	どちらかといえば、調べようしていない	調べようしていない	無回答
H18	30.3	32.6	22.7	13.8	0.5
H19	32.6	32.0	21.6	13.6	0.2
H20	32.1	32.2	21.2	14.4	0.1

問34 歴史上の人物やできごとをあつかっている本を読むことは好きですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H18	30.8	24.5	24.1	20.0	0.6
H19	30.3	24.9	24.5	20.2	0.1
H20	28.5	24.7	24.9	21.7	0.2

問35 社会のできごとやニュースに関心がありますか。

	関心がある	どちらかといえば、関心がある	どちらかといえば、関心がない	関心がない	無回答
H18	32.3	41.2	17.9	8.1	0.6
H19	35.6	39.5	16.7	8.0	0.2
H20	35.2	39.2	17.7	7.8	0.1

II 調査結果の概要

【算数】

問36 算数の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことはすきですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H18	26.2	29.6	29.0	14.5	0.7
H19	26.9	29.1	29.3	14.4	0.4
H20	25.9	29.4	29.8	14.6	0.3

問37 問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。

	考えようとしている	どちらかといえば、考えようとしている	どちらかといえば、考えようとしていない	考えようとしていない	無回答
H18	24.2	32.8	27.9	14.4	0.7
H19	26.3	33.4	25.8	14.1	0.4
H20	25.3	34.2	26.2	14.0	0.2

問38 問題が解けなかったとき、なぜ解けなかったかをふり返って考えようとしていますか。

	考えようとしている	どちらかといえば、考えようとしている	どちらかといえば、考えようとしていない	考えようとしていない	無回答
H18	29.3	37.3	21.5	11.3	0.7
H19	29.6	37.4	20.8	11.8	0.4
H20	28.5	36.9	22.6	11.7	0.3

【理科】

問39 理科の勉強で、実験や観察をすることはすきですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H18	70.3	20.3	5.8	3.0	0.7
H19	69.7	20.9	6.1	2.8	0.4
H20	69.9	20.8	6.2	2.9	0.3

問40 理科の勉強で、わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとしていますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしていない	調べようとしていない	無回答
H18	26.3	37.5	26.1	9.4	0.7
H19	28.0	37.6	25.5	8.5	0.4
H20	27.0	37.0	26.1	9.6	0.3

問41 自然や理科についての読み物や図かん、テレビ番組などをよくみていますか。

	よくみている	どちらかといえば、よくみている	どちらかといえば、あまりみていない	あまりみていない	無回答
H18	29.4	27.4	26.2	16.3	0.7
H19	29.3	27.6	25.8	16.8	0.5
H20	28.0	27.9	26.7	17.1	0.3

【総合的な学習】

問42 自分の興味や疑問をもったことを自分のやり方で学習できていると思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	思わない	無回答
H18	20.2	45.2	25.4	8.3	0.9
H19	20.5	45.5	25.6	7.9	0.5
H20	20.6	44.4	26.5	8.2	0.3

問 43 情報の集め方や調べ方がわかるようになったと思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	思わない	無回答
H18	30.7	42.8	19.2	6.4	0.8
H19	31.9	42.5	18.7	6.6	0.4
H20	32.2	42.9	18.0	6.6	0.3

問 44 自分が興味をもったことをもっと調べてみたいと思うことがありますか。

	思うことがある	どちらかといえば、思うことがある	どちらかといえば、思うことはない	思うことはない	無回答
H18	45.4	30.6	16.4	6.9	0.8
H19	46.4	31.5	15.3	6.2	0.5
H20	46.8	30.7	15.5	6.8	0.3